

週刊 YEAR BOOK

1868~99  
明治元~32年

# 日録20世紀

32

平成11年3月2日発行  
(毎週1回火曜日発行)  
第3巻第8号 通巻100号  
平成10年8月21日第三種郵便物認可

¥560  
講談社

「日清戦争」、開戦!

## 明治という時代

帝都の盛り場・浅草に高層ビル  
「凌雲閣」建つ!

“明治の花嫁”花・ベルツと  
クーデンホーフ光子

「大久保利通暗殺」と  
血塗られたテロの系譜





# 初の近代海戦「黄海海戦」に圧勝した海軍 鴨緑江を越えて清国領内へ進撃する陸軍 「日清戦争」開戦!



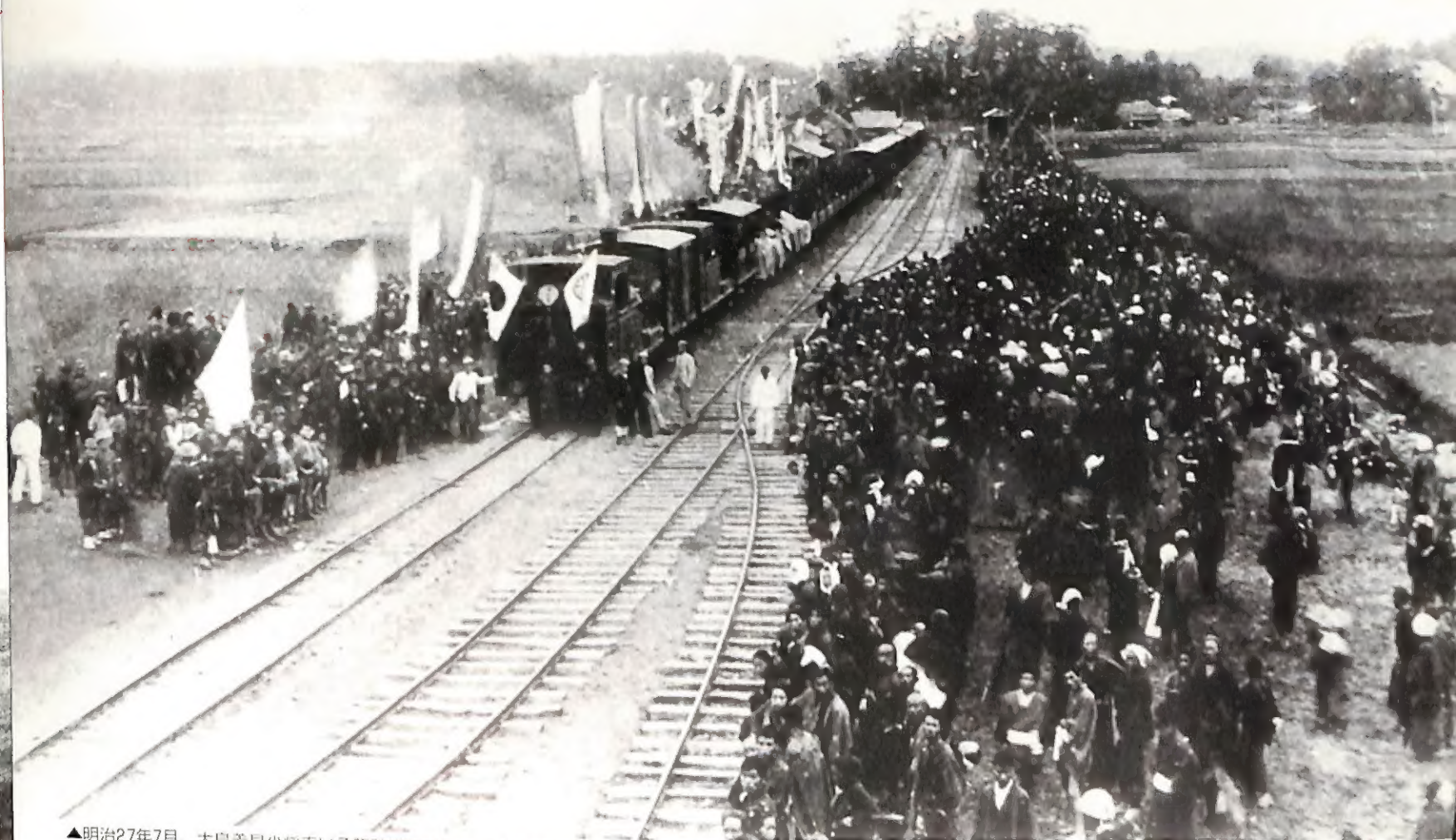
▲旅順の西方、方家屯付近で砲撃する第2軍の山砲中隊。明治27年11月21日、大本営陸地測量部撮影。

朝鮮の内乱を機に  
日清が兵員を派遣

明治二十七年九月一七日、日本軍の連合艦隊（伊東祐亨司令長官以下五二）は、敵情視察のため、朝鮮の海洋島に向かつて航行していた。軍艦の「吉野」「秋津洲」などで構成された第一遊撃隊を前衛とし、「松島」「敵島」が本隊となった二隻の連合艦隊に、雨まじりの風が吹きつける。「敵艦隊東方に見ゆ」——午前二時三〇分、大孤山港沖にさしかかった時、清国の丁汝昌提督率いる軍艦一二隻、水雷艇六隻からなる北洋艦隊と鉢合わせになった。日清主力艦隊の思わぬ遭遇だった。両軍の距離が三〇〇〇メートルに近づいた午後零時五〇分頃、ついに戦端が開かれた。この時、「秋津洲」の上村彦之丞艦長（四五）は、

「兵員に向かって『お前達の中には、怖がつて居るものがあるさうだ。（中略）誰が怖がつて居るか、見当がつかぬ。斯んな場合勇気のあるものは拳銃がだらりと垂れて居るが、怖がつて居るものは縮み上つて居るさうだ。今から之を点検する』と訓示し、『ツボン取れ！』と怒鳴

「日清戦争」は、明治維新を経た日本が、初めて戦った対外戦争だった。当時、米國に留学中の松岡洋右（後に外相）が、「周囲のアメリカ人は、日本が支那にひどい目に遭わされるぞという見かたであつた。まるで提灯に釣り鐘だ」と嘆いたように、大方の予想は「清國に分あり」。しかし、日本は圧勝し、列強の仲間入りを果たすことになった。



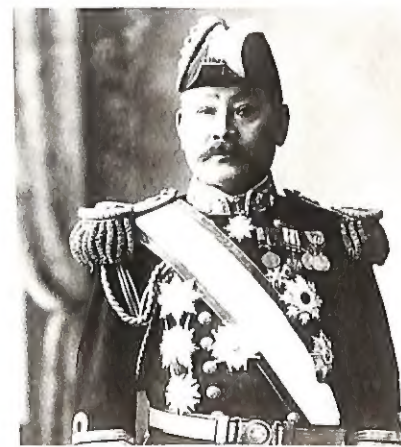
▲明治27年7月、大島義昌少将率いる臨時混成旅団が、牙山で戦勝を祝する中、第5師団、さらに第3師団が歓呼の声に送られ朝鮮へ向かう。千葉県佐倉駅で。前日撮影。



▲広島城内におかれた大本営正門。開戦後、大本営は東京から西に移されることになり、宇品港に近い広島が選ばれた。

▶日清戦争に際して、第1軍司令官となり、平壤、九連城の戦いを指揮した山県有朋。この写真は、9月出征直前に広島で撮影。

◀連合艦隊を指揮して、黄海海戦で勝利をおさめた伊東祐亨司令長官。威海衛作戦では、残存する北洋艦隊を壊滅させた。



◎表紙 写真師・内田九一が、明治5年に撮影した明治天皇。この写真が、明治天皇の最初の「御真影」とされている。



初の近代海戦「黄海海戦」に圧勝した海軍  
鴨緑江を越えて清国領内へ進撃する陸軍  
「日清戦争」開戦!



▲威海衛北岸黄土崖に据えられた21センチ砲。攻略成功によって捕獲した砲は計90門にのぼり、55門が使用可能だった。



毎日新聞社



▲旅順攻略を主任務とする第2軍に従軍した新聞特派員団。中央は、大寺安純第1師団参謀長。

▲明治27年11月21日、第2軍は清国軍が十数年の歳月をかけて構築した旅順要塞を、わずか1日で占領した。清国兵戦死者を埋葬する軍夫。

つた。この珍号令に一同思わず爆笑、蒼白な顔をして居たものも何時もの如く元氣になった」(中島武「海の旗風」)  
一瞬、緊張の走った日本軍も、第一遊撃隊が快速を利用して、「致遠」「超勇」など五隻を撃沈・大破し、東洋随一と言われた軍艦の「定遠」(七三〇ト)などに損傷を与えた。清国側の死傷者は一〇〇人以上。日本側は艦艇を一隻も失わず、死傷者も一四〇人にすぎなかった。  
約二ヵ月前の七月二五日、朝鮮西岸の豊島沖で緒戦を飾った日本海軍は、この「黄海海戦」で制海権を奪い、その後の戦闘を有利に進めることになる。  
「日清戦争」は、ロシア南下の防波堤として朝鮮を勢力下におきたい日本と、朝鮮を属国とみなしていた清国が、威信をかけて対決した戦争だった。  
明治二十七年三月、朝鮮・全羅道で新興宗教の一派が中心となった農民叛乱「東学党の乱」が勃発したのを機に、李朝が



▲負傷兵の護送。明治二十八年三月一八日、金州城内兵站病院前で撮影。



▲第1軍司令部および第3師団が、朝鮮国仁川港に上陸。写真左奥の建物は、日本郵船支店。右端の海浜に並べられている軍需品は、渡河に必要な鉄舟。明治27年9月12日、大本営写真班撮影。



▲明治28年2月、威海衛で説教する従軍僧侶。前年12月中旬以降、連合艦隊と第2軍による威海衛作戦が展開され、威海衛要塞と北洋艦隊が攻撃目標となった。



▲日清開戦に先立って結ばれた「大日本・大朝鮮両国盟約」に従って、朝鮮政府兵が日本軍に従軍。写真は、清国兵捕虜を監視する朝鮮政府兵。



初の近代海戦「黄海海戦」に圧勝した海軍  
鴨緑江を越えて清国領内へ進撃する陸軍  
「日清戦争」開戦!

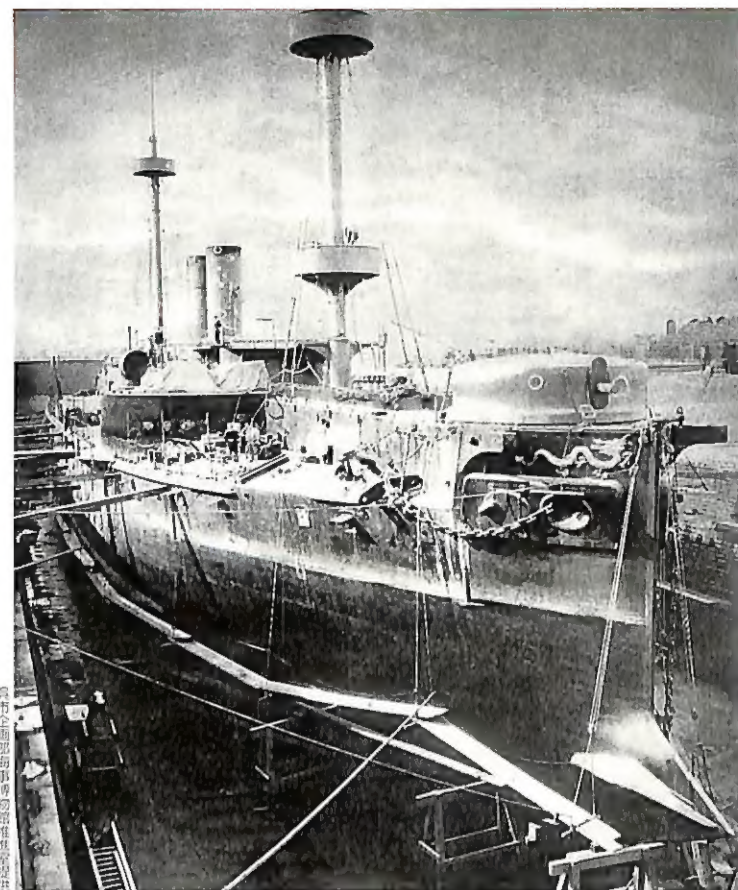
## 日清講和会議と三国干渉

明治28年3月20日から、下関の春帆楼で開催された日清講和会議の顔ぶれは、日本側が伊藤博文首相、陸奥宗光外相、中国側が李鴻章・直隸省総督兼北洋大臣。約1ヵ月後の4月17日に調印された条約の内容は、朝鮮を独立国として承認する、遼東半島と台湾、澎湖島を日本に割譲する、軍費の賠償金として銀2億両(約3億円)を払う、などだった。ところが調印から6日後、露、仏、独の駐日公使が外務省を訪れ、「遼東半島領有は、東アジアの平和を乱す」として、放棄するよう勧告した。いわゆる三国干渉である。

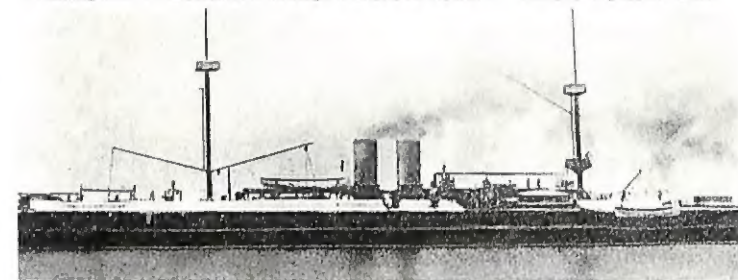
あわてた政府は、24日から御前会議を開いて三つの案——戦争をしてでも干渉を拒否する、列国会議で処置を決める、遼東半島を返還する——を協議し、5月4日に領有の放棄を決定した。この干渉をめぐっては世論も沸騰。生方敏郎(当時・12歳=後に作家)はその様子を、「先生やお父さんと一緒に成て、泣くほどまでに遼東還付を悔しがった」と回顧している。無念の思いは、「臥薪嘗胆」という合い言葉となって、来たるべき対露戦への心の準備を国民にもたらした。



▲清国全権として来日した李鴻章。開戦直後に第三国の友好介入を策すなど、老練な政治家の面を発揮。



▲北洋艦隊の主力艦「鎮遠」は、威海衛の戦い後、旅順に曳航され、日本回航のため応急修理をほどこされた。明治28年5月6日、大本営陸地測量部撮影。  
▼「鎮遠」とともに活躍した「定遠」。黄海海戦で損傷し、威海衛で撃沈された。



物船一等運転士、林治寛の日記によれば、「旅順口陥落の時上陸せしに、死屍相積(中略)酸鼻の残(惨)を見し。内に老あり、幼あり、婦人あり、稚児あり。未だ死に至らざるもの伸(呻)の声、今に猶ほ耳に存す」(『日清戦争 秘蔵写真が明かす真実』)という惨状だった。

日本軍の蛮行は、海外にも伝わり、米国の条約改正交渉にたずさわっていた外務省を窮地におとしめた。

一方、日本の庶民も、開戦後は清国への敵愾心をかきたてられていった。それに役立ったのが、朝鮮を清国の侵略から守るという「義戦論」を展開した新聞や、各地で行われた戦勝祝賀会などだ。

小学二年生だった社会主義者の荒畑寒村が見た壮士芝居では、「支那兵

「日本において、挙国一致の戦時体制を成立させたのが『日清戦争』でした。言いかえれば、日本人はこの戦争によって、初めて国家と天皇の存在を認識するようになった。と同時に、急速に衰退して欧米列強に分断される歴史を歩む清国とは裏腹に、列強の仲間入りを果たした日本は、強大な軍力と朝鮮を足場に、近隣諸国への侵略を開始します。昭和一〇年に破綻するまで、日本が『大日本帝国』として何度も戦争を繰り返す出発点になったのが、この『日清戦争』なのです」

その後、日本軍は明治二十八年一月下旬から、威海衛要塞と北洋艦隊を陸海両面で攻撃。夜襲をかけて主力艦を大破させ、二月二日、北洋艦隊を壊滅に追いこんだ。丁汝昌提督は、請降書を発して服毒自殺する。さらに三月には、遼東半島を制圧し、日本は講和に向けて断然有利な位置に立つことになった。

下関で講和条約が調印されたのは、明治二十八年四月一七日。兵力(日本約二四万人、清国約九八万人)や海軍の総トン数(日本五万九一〇六ト、清国八万五〇〇〇ト)では清国優勢だが、指揮系統、弾薬補給、作戦計画はどれを取っても日本がまさっていた。

こうした「日清戦争」の歴史的な意味について、前出の檜山教授は、以下のよう

▲黄海海戦。写真右手前が、軍艦「橋立」

「旅順口陥落の時上陸せしに、死屍相積(中略)酸鼻の残(惨)を見し。内に老あり、幼あり、婦人あり、稚児あり。未だ死に至らざるもの伸(呻)の声、今に猶ほ耳に存す」(『日清戦争 秘蔵写真が明かす真実』)という惨状だった。

日本軍の蛮行は、海外にも伝わり、米国の条約改正交渉にたずさわっていた外務省を窮地におとしめた。

一方、日本の庶民も、開戦後は清国への敵愾心をかきたてられていった。それに役立ったのが、朝鮮を清国の侵略から守るという「義戦論」を展開した新聞や、各地で行われた戦勝祝賀会などだ。

小学二年生だった社会主義者の荒畑寒村が見た壮士芝居では、「支那兵

に扮した役者に落花生のからや蜜柑の皮などを投げつけるので、なかには支那兵の役者が憤慨して舞台から見物と暗喩することもあった」(『荒畑寒村「ひとすじの道」』)。さらに、「大勝利かんざし」「分捕りせんべい」などの記念グッズも、巷で流行していたという。

その後、日本軍は明治二十八年一月下旬から、威海衛要塞と北洋艦隊を陸海両面で攻撃。夜襲をかけて主力艦を大破させ、二月二日、北洋艦隊を壊滅に追いこんだ。丁汝昌提督は、請降書を発して服毒自殺する。さらに三月には、遼東半島を制圧し、日本は講和に向けて断然有利な位置に立つことになった。

▲「橋立」「敵島」「千代田」「松島」、左は第1遊撃隊。遠方に見えるのが清国艦隊。明治27年9月17日、午後零時56分撮影。

「明治天皇は、出兵そのものには反対ではありませんでした。伊藤博文首相(五二)や陸奥宗光外相(五〇)の強引なやり方に憤慨していました。伊藤や陸奥は、重要な外交情報を隠し、閣内にも詳細を知らせず、まったくの独断で開戦外交を展開したわけです」

そう語るのは、『日清戦争 秘蔵写真が明かす真実』(講談社)の著者、中京大学の檜山幸夫教授である。

「開戦外交」の裏にあるのが、国内問題だった。対外強硬派を中心とする反政府運動の高揚で、窮地におちいった伊藤内閣は、危機の回避策として戦争を期待していた。

ところが、開戦後、日本軍が次々に勝利をおさめると積極姿勢に転じた明治天皇は、九月一五日に設置された広島大本営で、みずから陣頭指揮をとり始める。

「ある司令官が、たまには御休息遊ばすために、安楽椅子を運ぼうとしたところ、『戦地にも、安楽椅子があるか』と仰せられたので、大御心の有難さ拝し奉

「国民国家」成立の契機となった戦争

日本軍は陸上でも、七月二九日に牙山の北東にある成歓で清国軍を打ち破ったのを皮切りに、九月一五日には平壤を占領。一〇月下旬には、元老の山岡有朋(五六)が司令官をつとめる第一軍が鴨緑江を渡り、凍傷と闘いながら、鳳凰城、奉天などへ進撃。遼東半島の花園河口に上陸した大山巖陸軍大将(五一)率いる第二軍も、一月中旬に大連、旅順を陥落させる。

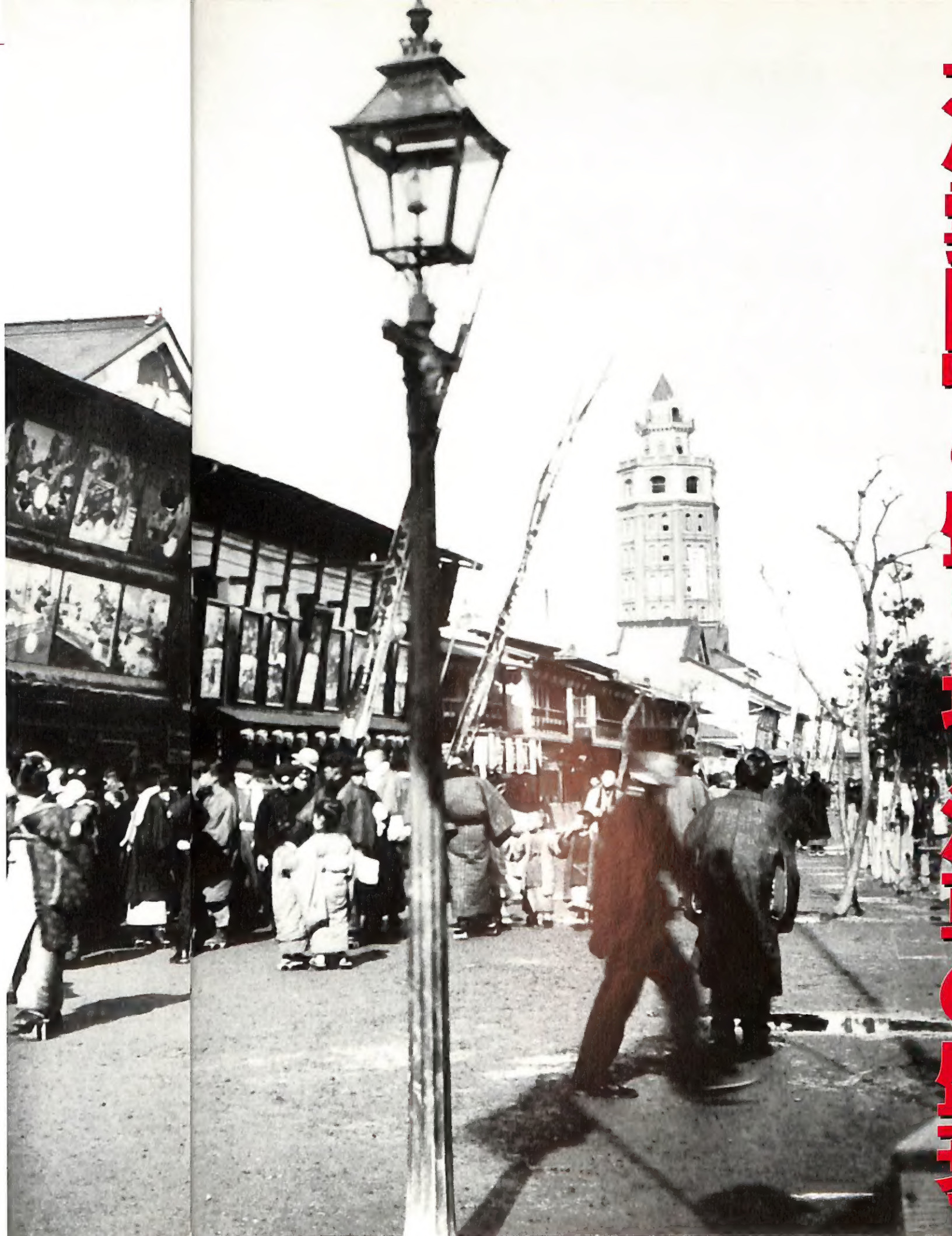
後に外交問題にも発展する「虐殺事件」が起きたのは、旅順占領の最中だった。一月二二日から数日間、山地元治(五三)中將率いる第一師団が行ったこの住民虐殺は、戦死した日本兵に清国兵が凌辱を加えたことへの報復とも言われ、貨



▲清国北洋艦隊を率いた李鴻章。名提督と呼ばれたが、降伏後自殺。



# 江戸情緒をとどめながら流行の発信地に 明治三年、高さ五十二階の東京一の高層建造物完成！ 「凌雲閣」と盛り場・浅草の盛衰



▲六区の興行街から「凌雲閣」を望む。浅草は、電飾に輝く表通りとその背後にひそむ私娼窟という二重空間によって、都市生活者を魅惑した。毎日新聞刊



▲六区の興行街から「凌雲閣」

明治時代の浅草は、日本でも最大、最先端のプレイゾーンだった。高さ五十二階の「凌雲閣」がそびえ立ち、浅草寺裏の興行街には江戸時代からの見世物小屋が軒

を並べ、後に映画、オペラ、軽演劇の殿堂となる盛り場としてにぎわっていた。また、遊廓・吉原にも隣接し、あやしげな私娼窟にも囲まれていたのである。

## エレベートルが昇降する 二階の超高層「凌雲閣」

明治三年一月、浅草に「凌雲閣」が完成した。赤煉瓦を積み上げた八角形の建物は、浅草の様相を一変させた。地上二階建て、高さは約五十二階（一二二尺）、当時の東京では最も高い建造物だった。

そもそも「凌雲閣」は、明治三年にパリで完成したエッフェル塔人気を開きつけて、これにあやかうと計画されたもの。着工が明治三年の一月、一〇月にはほぼ落成していたからわずか一〇ヵ月で完成にこぎ着けたのである。

もともと構想段階では、一〇階建てのはずだった。だから一〇階までは煉瓦だが、その上の部分は木造となっている。

「凌雲閣」は、前年の明治二年に大阪で完成した九階建ての建造物の名称だったが、江戸っ子が対抗意識を燃やし、三階高いものを建ててあえて同じネーミングをしたとも言われる。地元では親しみをこめて「二階」と呼ばれた建物には、三〇倍の望遠鏡が据えられ、富士山や関

東平野が一望できた。日本初のエレベーター二台が目見えしたことも、浅草っ子の自慢の種だった。「八階までは電気モーターの運転により昇降台IIエレベートルを昇降せしむ」「電気モーターは紐より購入せしものにて、一五馬力を有せり」

料金はずいぶん半額とされていたことも、時代をものがたっている。「凌雲閣」が当時の最も先端的な技術を導入し、ハイカラな商品を取りそろえていた事実は、浅草が東京の中でも最先端の流行の発信地だったことを示している。そして実際、浅草は、東京見物には欠かせないスポットだった。



▲明治18年、東京市が浅草の仲見世を煉瓦造りの洋風店舗に改築。年末には、139店が新装開店した。



▲明治三〇年頃の雪のじつたん池。右手奥に日本パノラマ館が。台東区立下町歴史資料館提供



## 仲見世、興行街「銘酒屋」 大衆に愛された街・浅草

もともと浅草寺の門前町だった浅草が、東京を代表する盛り場に発展したのは、



明治十九年、五層の楼閣、奥山閣が花屋敷に移築された。

明治六年、芝罘上寺、深川八幡などとともに、日本初の公園に指定されてからのこと。その結果、すべての営業が許可制になった反面、「暮れ六つ（午後六時）」で閉められていた浅草寺境内が、一二時まで開かれることになった。深夜まで営業していることは、都会の盛り場にとって必須の条件だった。

また、明治一五年四月には隅田川を蒸気船が航行し、同じ年には新橋―浅草間に馬車鉄道が開通する。アクセスが確保され、浅草を訪れる人はますますふえていった。明治一八年には仲見世が煉瓦造り二階建ての洋風建築となり、面目を一新する。

浅草が俗に「エンコ」と呼ばれるのは、「コーエン（公園）」を逆に読んだものである。この地域を六つに区切り、二区が観音堂周辺、二区が仲見世、そして六区が興行街となった。奥山の興行小屋が六区に移転したのは、明治中期のこと。奥山は玉乗り、軽業、操り人形、手裏（手品）など、あらゆる見世物小屋でにぎわっていた。その後、明治三六年に、日本初の常設映画館「電気館」（活動写真と呼ばれた）のオープンに皮切りに、次々と映画館が誕生し、一〇〇〇人収容の小屋が二〇軒以上も軒を並べた。

古今亭志ん生が断の枕に好んで振った川柳に、「巾着は浅草と聞き親父行き」がある。浅草と吉原は徒歩で行ける距離だったため、

息子に行かせるわけにはいかないという意味だ。吉原にかような人にとって、仲見世は通り道だった。「観音様」にお参りした後、別の「観音様」を拝みたいという不謹慎な輩が少なくなかったのである。江戸時代から公認の売春街だった吉原の遊女の数は、明治二〇年には二〇〇〇人を超えていた。

吉原以外にも、浅草には私娼窟があった。「銘酒屋」と称して、当時としては珍しいウイスキーや、ブランドの瓶を店頭に掲げたのがミソ。表向きは居酒屋だが、実態はいわゆる「ちよんの間」の客相手の売春窟だった。つまり大きめの座布団があるだけで、吉原より安いのが売り物。一時は吉原を上回る勢いを見せた。再三摘発を受けたのは、吉原の差し金とも言われる。中には「新聞縦覧所」と銘をつけた店まで出現し、料金は五〇銭から七〇銭前後が相場だった。明治二〇年当時、米一〇〇の値段は四六銭と記録されている。一軒当たりの売春婦の数は、せいぜい二、三人にすぎなかったものの、「二階下」から下束通りにかけて、二〇〇軒におよぶ「銘酒屋」が立ち並んでいたという。

浅草は、前掛けをかけ、烏打ち帽をかぶった小僧さんが目立ったように、大衆に愛された町だった。帝劇で不発だったオペラを、躍大ヒットさせ、「浅草オペラ」という独特のものを育ててしまう熱気と活力が、多くの人をひきつけた。

台東区立下町風俗資料館の元館長、まつもと・かずや氏は、浅草の魅力をこう説明する。

「浅草が東京一の盛り場となった理由と



明治一四年に作られた、新吉原大門から見る仲の町。撮影は明治二〇年前後。

## 女たちの肖像

稲葉真弓

## 失恋と生活難に苦しみ続け 名作「たけくらべ」発表後 樋口一葉、二四歳で死去！

明治の文壇は、与謝野晶子、山川登美子ら「もの書く女」を産んだが、江戸の名残濃い一九世紀末を生き、後々まで「考察」に値する作品を残した女性作家を一人だけあげるとするなら、樋口一葉だろう。彼女の生涯は、わずか二四年と六ヵ月。活躍した期間も六年余にすぎないが、文学的業績の輝きは、没後一〇〇年を経た後も衰えてはいない。短い年月を小説を書くことで疾走し、日本文学史上に金字塔を打ち立てた彼女が作家をめざしたのは、皮肉にも貧苦から脱却したいという思いからだった。

樋口一葉（本名）なつ・奈津、夏子ともいう）は、明治五年三月（太陽暦五月）東京・内幸町に六人兄妹の次女として生まれた。役人の父親は学問や詩歌好きで、一葉も七歳の頃から絵草紙（絵入りの小説本）に親しみ、青海学校小学高等科を首席で卒業した。母の反対で進学は断念したが、父のとりなしで一四歳の時、歌人・中島歌子の萩の舎に入塾し、和歌や書道を学んだ。



▲最も優れた作品は、日記といわれる『評伝』もある。

明治二二年、父親が病死。その死で一葉の婚約話も破談となり、一家はたちまち困窮した。萩の舎の内弟子となったのは翌二三年、同塾の先輩、田辺花圃（龍子）が文壇で脚光をあびている最中だった。女中めいた仕事をしながら小説を書き始めていた一葉は、自分も花圃のように原稿料で生活したいと、作家を夢見るようになった。

一葉の文学は、小説家であり「東京朝日新聞」記者の半井桃水との関係を抜きにしては語れないが、彼女が二二歳年上の半井に出会ったのは明治二四年春のことである。作品の指導を受けるため彼の自宅に出入りするうちに芽生えた恋の感情は、彼女の日記に明らかだが、作家としての出発もまた、半井の主宰する同人誌「武蔵野」だった。二五年、同誌に「閑桜」「五月雨」を発表した彼女は、半井と絶交したり恋心を募らせたりしながら、「経つてえ」「うもれ木」などを発表。「うもれ木」は文壇で絶賛されたが、原稿料は生活費に消え、二六年には母親や妹と雑貨屋を開いた。

一葉の名作が生まれるのは、商売に失敗、借金を重ねながら、再度、作家活動を始め明治二七年からである。「文学界」に発表した「大つこもり」が大きな評価を受け、代表作「たけくらべ」「にこりえ」などを次々と発表。名声も高まり栄光の絶頂にあったが、肺結核に冒され、二九年一月、妹にみとられて死去した。

## 勝者・敗者

阿部珠樹

## 国内敵なし！高野球部が 打って打って、打ちまくり 初の国際試合は二九対四！

野球の始まりには諸説あるが、ごく大まかに跡づけると、日本に持ちこまれたのが明治五年、一〇年代にはクラブチームが発足、二〇年代には第一高等学校が黄金時代を迎えたというのが定説と言える。

明治二〇年代、国内に敵なしの高が、外に強豪を求めたくなるのは当然である。しかし、現在のように、高校生が気軽に外国遠征に出かける時代ではもちろんない。そこで考えついたのが、日本在住の外国人クラブチームとの対戦だった。近代スポーツが日本に導入されたきっかけは、外国人クラブがやっているのをまねて、というケースが多く、ラグビーなどのように最初の試合が日本チーム対外国人チームというケースも少なくない。その点、野球は国内チーム同士の試合で始まっており、異色と言えた。

それはさておき、日本最強の高が相手に選んだのは横浜の外国人クラブ。場所はなんと、現在、横浜ベイスターズの本拠地となっている横浜スタジアムのあるところ。当時は横浜公園と呼ばれていた場所だった。記録によると、試合が行われたのは、明治二九年の五月二三日午後三時から。初回に四点を先制され、大差の負けも予想された一高だが、その後すばらしい反撃を見せ、打って打って、打ちまくり、あげた得点は実に二九点。初回、「日本初の国際試合」という大舞台に緊張して点を取られた一高



▲前列左から二人目が青井鏡雄。前年、試合を申し込んだ時には、「野球はわが国の国技なり。われ等の軀幹諸君に倣す」との理由で断られていた。

のエース・青井鏡雄（当時・二三歳）が立ち直り、二回に得意の快速球と当時の「魔球」とも言うべきカーブを駆使して三者三振を奪うなど力投、得点を許さない。結局、二九対四の大差で一高が勝ち、初の国際試合は、日本側の大勝利という結果になった。一高は、六月五日、同じ相手の挑戦を受けた再試合にも大勝利、一高時代を揺るぎないものにする。平成一〇年、ベイスターズ優勝に沸いた横浜スタジアムは、一世紀前にも、同じグラウンドが野球ファン熱狂の舞台になっていたのである。

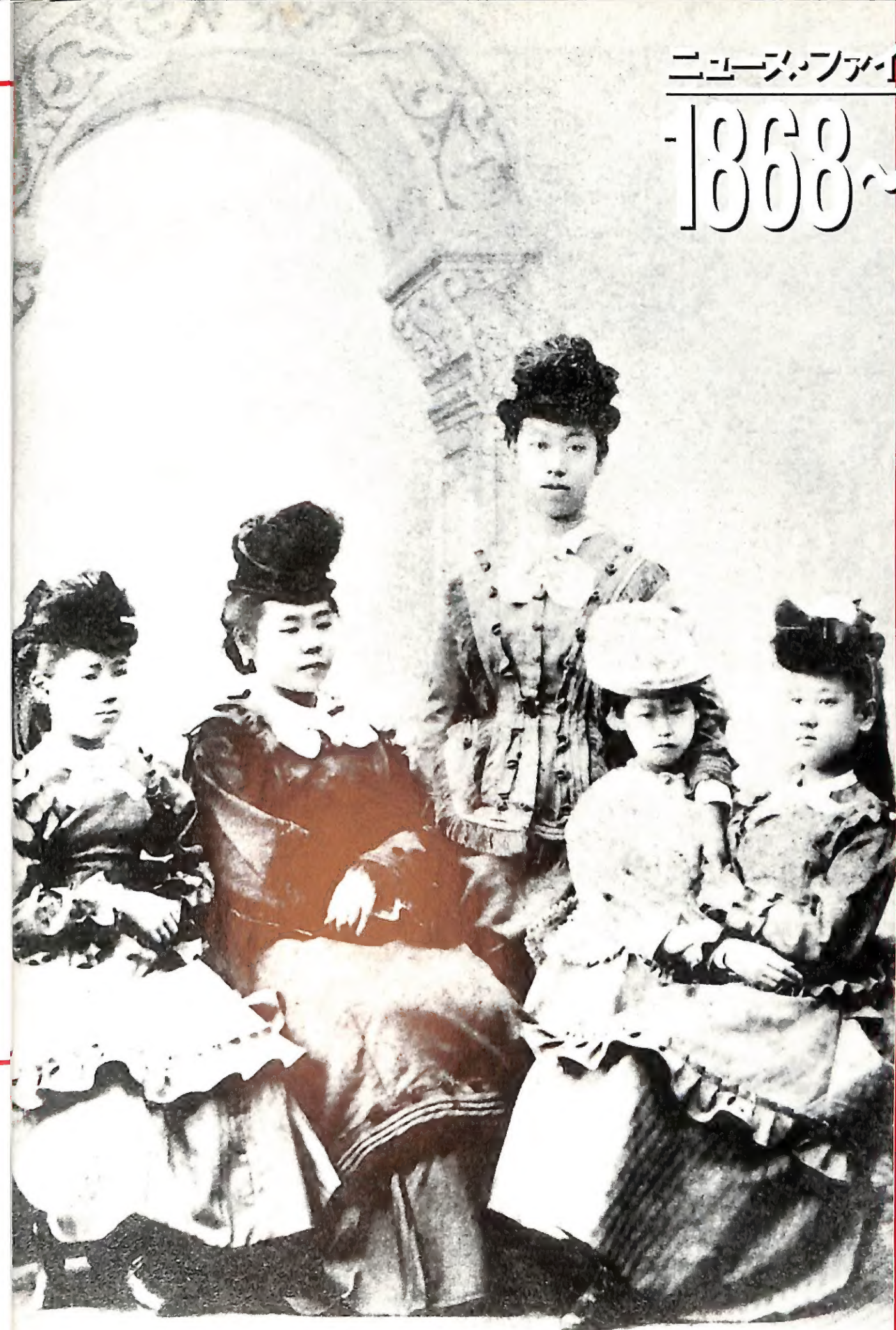


# 1868~1899

## フォト＋日録で再現する明治元年から三十二年

明治維新政府は戊辰戦争・西南戦争を経て反対勢力を駆逐、近代国家形成へ邁進した。欧米化と「富国強兵」を急ぎ、琉球処分、朝鮮進出……、明治二十七年には日清戦争に突入。日本は二〇世紀を目前に、念願の列強との不平等条約撤廃を達成、ついに国際舞台に登場した。

▲日本初的女子留学生(明治4年12月23日)「婦女子の範たる」の星島淑子(左)を筆頭に、5人が「岩倉使節副官」に随行。10年間の留学した。写真は翌年、米蘭で。左から3人目が山田操(1)、右端が山田操子(7)。



日録 20世紀1868~1869



▲▼京都に日本初の小学校(明治2年6月30日)学制発定前に府が、1番組(町)1校を原則に、この年、64校を開校。寄付金で設立した小学校会社が経営した。写真下は、先駆となった上京第27番組小(現・柳池小)で、番組の役場も兼ねた。上は塩津寛一郎初代校長。



▲戊辰戦争勃発(慶応4年1月27日)大政奉還のうえ、領地返納を迫られた徳川慶喜は、ついに鳥羽・伏見で、新政府軍の薩長軍と激突、内戦に突入した。写真は、最新鋭を誇る薩摩の鉄砲隊。



▲淀川に外輪船就航(明治元年)大阪・伏見間を往復。船腹に推進車をつけた蒸気船で、上りは6時間、下りは3時間半。従来の和船を駆逐、明治9年の鉄道開通まで、京阪交通の中心を担った。



▲本格的洋式ホテル誕生(明治2年1月1日)東京・築地の外国人居留地に築地ホテルが開業。2階建て、客室102室。貿易所を兼ね、2代目・清水喜助が建設。洋風建築の出発点となった。



毎日新聞社

▲山県有朋(31)ら渡欧(明治2年6月)先進国の文化摂取を痛切に感じ、欧州の特に軍制を視察。翌年8月に帰国した。写真は、長崎出発時で、右から二人目が山県。左隣は同行の西郷従道(26)。



毎日新聞社

▲京大の前身、開校(明治2年7月18日)新政府が大坂に舎密(セイミ)局を開校、初の理化学教育を行った。「舎密」とはオランダ語で理化学の意味。後に京都へ移転。写真中央は、外国人教師のボードウィン。



明治元年

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1869</p> <p>11月17日 ●スエズ運河が正式に開通</p> <p>8月6日 ●東京・九段に招魂社創建、戊辰戦争戦死者を祀る(明治12年、靖国神社と改称)</p> <p>7月25日 ●諸藩の版籍奉還を実施、藩主を知藩事に任命</p> <p>6月30日 ●京都の上京第二番組小学校、開校式</p> <p>6月27日 ●蝦夷・五稜郭開城、榎本武揚以下が降伏(戊辰戦争終結)</p> <p>6月22日 ●新政府、出版条例を定める。出版許可制、政府誹謗・風俗壊乱禁止など</p> <p>5月10日 ●米国で大陸横断鉄道が完成</p> <p>4月5日 ●太政官を東京に移すことを布達(事実上、東京遷都が決定)</p> <p>3月31日 ●東京府、男女混浴・春画販売などを禁止令</p> <p>3月2日 ●新政府、諸藩の関所を廃止</p> <p>3月17日 ●新政府、新貨鑄造を決定し、太政官に造幣局設置(7月8日、造幣寮と改称)</p> <p>2月27日 ●開成所、仏・英人を教師として授業開始</p> <p>2月15日 ●参予・横井小楠、キリスト教宣教師の元凶と京都で暗殺(10月、兵部大輔・大村益次郎も)</p> <p>2月11日 ●初の洋式灯台、観音崎灯台に点火</p> <p>1月27日 ●蝦夷地(今北海道)を占領し旧幕府軍、総裁・榎本武揚に役人任命、「共和国」発足</p> <p>12月26日 ●新政府、火刑・磔刑を廃止</p> <p>1月1日 ●新政府、東京・築地に外国人居留地を設置</p> <p>10月8日 ●新政府軍、会津若松城を囲む。会津藩白虎隊、飯盛山で自刃(11月6日、開城降伏)</p> <p>10月12日 ●明治天皇即位の礼挙行(23日、明治と改元)</p> <p>11月4日 ●天皇、東京のため京都出発(1月26日東京着、江戸城を皇居とし東京城と改称)</p> | <p>1868</p> <p>1月3日 ●明治天皇臨幸し、宮中で「王政復古」の大号令</p> <p>1月27日 ●新政府軍、旧幕府軍と鳥羽・伏見で戦端開始(戊辰戦争始まる。28日、旧幕府軍敗退)</p> <p>2月22日 ●新政府、京都の豪商に三〇万両募債を要求</p> <p>4月6日 ●天皇、「広く会議を興し万機公論に決すべし」など、「五箇条の箇文」を公布</p> <p>4月20日 ●神仏分離令を制定。排仏毀釈運動起る</p> <p>5月3日 ●江戸開城(9月3日、江戸を東京とする詔書)</p> <p>5月17日 ●ハワイへ契約移民として邦人二〇人渡航</p> <p>5月22日 ●英政府、日本の新政権を承認。列国では初</p> <p>6月7日 ●新政府、長崎で浦上キリシタンを弾圧。信徒約四〇〇人を諸藩二四家に分付の命令</p> <p>6月9日 ●新政府、太政官札五種を発行し産業興隆をはかるよう布告。諸藩・豪農商に貸し付ける</p> <p>7月4日 ●東京・上野で新政府軍に彰義隊が敗北</p> <p>10月8日 ●新政府軍、会津若松城を囲む。会津藩白虎隊、飯盛山で自刃(11月6日、開城降伏)</p> <p>10月12日 ●明治天皇即位の礼挙行(23日、明治と改元)</p> <p>11月4日 ●天皇、東京のため京都出発(1月26日東京着、江戸城を皇居とし東京城と改称)</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 慶応4~明治2年





「開国八十年史」

▼富岡製糸場が創業(明治5年11月4日)生糸を主要輸出品にという政府方針により、官営で出発。私人技師を招き、技術向上と増産をめざした。職工には士族の娘が多く、後に指導者として各地に散った。

▼日本軍、台湾に出兵(明治7年5月22日)漂着した琉球島民の殺害を盾にとり、西郷従道(31)が遠征軍を率いて侵攻。清国は出兵を「義挙」としたが、琉球の日本帰属は否認。写真は宿舎前で、2列目中央が西郷。



北海道大学附属図書館蔵



▲徴兵令公布(明治6年1月10日)国民皆兵をうたったが、官吏や戸主を免除、代人を認めるなど抜け道は多かった。このため、負担は農村部に集中、各地で徴兵反対一揆が頻発した。写真は、翌年の第1回徴兵検査を受けた壮丁。

▼釜石釜山に高炉完成(明治7年)政府は近代産業の育成を期し、さまざまな分野に官営工場を建設した。官営釜石釜山も、新鋭高炉を英国から輸入、生産増強をはかった。



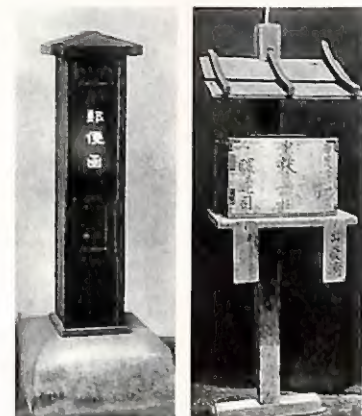
▲開拓使本庁が完成(明治6年10月)北海道・札幌に、3階建ての西洋建築が誕生。黒田開拓次官らと、米田農務局長・ケブロンら70人余の外国人が、広大な原野の資源調査・産業開発をめざした。

▼清水次郎長(54)、富士南麓を開墾(明治7年)東海道筋の博徒の大親分が、静岡藩藩政改革にあたって山岡鉄舟の指導で、政府の殖産奨励事業に協力。開墾は成功、次郎長町という字を残した。



内田九一

▲大阪初の鉄橋登場(明治3年9月22日)2年前の洪水で木橋が流失したのを機に、大阪城の外堀、東横堀川の高麗橋を架け替え。長さ64メートル、英国製鉄材使用の橋が開通した。



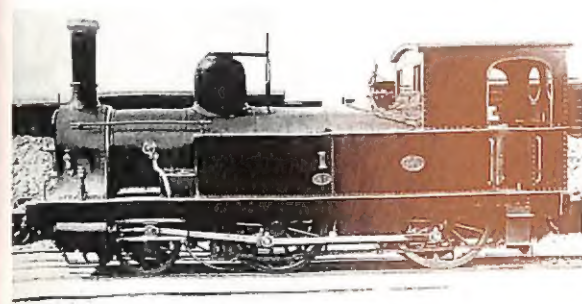
「郵政百年史」

▲文明開化のシンボル誕生(明治5年10月24日)東京・兜町に和洋折衷の木造5階建て、「三井組ハウス」が完成。たちまち東京の新名所に。翌年設立の第一国立銀行が借り受け、使用した。



▲琉球国から慶賀使(明治5年10月16日)維新政府の要請で、伊江王子(写真中央)を正使とする一行が来日。天皇は国王・尚泰を藩王に任命。明治12年の「琉球処分」の始まりだった。

▶岩倉使節団、欧米へ(明治4年12月23日)不平等条約改正と、先進文化の摂取をめざし、岩倉具視(47)ら政府首脳が出発。写真左から木戸孝允、山口尚芳、岩倉、伊藤博文、大久保利通。



▲新橋-横浜間に鉄道開通(明治5年10月14日)英人・モレルらの指導で念願達成。翌日から英国製蒸気機関車(写真)と、客車が1日9往復の運転を開始した。



明治37年

- 1874
- 1月17日 郵船「後藤」が、江蘇新平・板垣退助ら退官の八人、民権院設立建白書に署名。
  - 2月1日 江蘇新平ら佐賀の士族、反政府騒ぎ(「八人」)占拠。3月1日政府軍が鎮圧、佐賀の乱。
  - 3月13日 東京に官立の女子師範学校設立(翌年開校)。
  - 4月10日 板垣退助ら、高知に自由民権運動の政治結社、立志社を創立(後に自由党に発展)。
  - 5月11日 大阪・神戸間の鉄道開通(明治9年京都間も)。
  - 5月22日 西郷従道、兵三〇〇人を率いて台湾に上陸し、撤兵。戦死者五八一人。初の対外軍事行動。
  - 5月28日 大蔵省、銀行学局を設置。英人講師を招き簿記学などを教授(初の近代的商業教育)。
  - 6月7日 教部省、禁煙、折紙を医療妨害と取締り通達。郎らが第一回演説会(演説会の初め)。
  - 7月13日 東京府、道路・車内でのほかわたり、手拭がぶら下がる禁止。
  - 12月8日 恤救規則制定。都市貧民急増で初の救護制度。
  - 12月25日 華族の東京第一長老教会で日本初のクリスマス祝会開催。
- 1873
- 11月4日 官営模範工場、群馬・富岡製糸場が開業。
  - 12月14日 京都府、仏・リヨンに西陣の織工を派遣。
  - 12月15日 国立銀行法令を定め、民間の銀行設立を許可。
  - 1月1日 大蔵省、二日間のこの日から太陽暦を実施。
  - 1月10日 徴兵令公布。適用除外規定多く、農民の負担が重くなったため、各地で反対騒ぎが起る。
  - 2月2日 佐倉順天堂、東京に開院。初の民間病院。
  - 2月7日 仇討ちが禁止される。
  - 2月18日 東京・長崎間の有線電信工事が完成。
  - 3月3日 皇后、お歯黒をはき、眉墨を落とす(20日、天皇、率先して断髪)。
  - 4月1日 郵便物の全国均一制実施(12月1日、ほかきと切手つき封筒を初めて発行)。
  - 5月1日 ウィーン万国博覧会開幕(11月2日、日本出品の美術工芸品が好評)。
  - 6月11日 第一国立銀行設立(8月、国立銀行紙幣五種を発行、金貨と同使用を公告)。
  - 7月28日 地租改正案を公布。土地価格を決め、所有者に地価の三割を金納で課税。
  - 8月1日 大阪で天王寺公園、住吉公園が開園。
  - 9月13日 岩倉具視ら通米欧使節団帰国。
  - 10月14日 紀元節など八祝祭日を定め休日とする。
  - 10月24日 西郷隆盛、朝鮮派遣の無期延期を参議院に提出(25日板垣退助ら四参議も、明治6年の政変)。
  - 11月10日 内務省を設置。警察、地方行政の全権集中。
  - 11月17日 郵船「後藤」が、江蘇新平・板垣退助ら退官の八人、民権院設立建白書に署名。
- 1872
- 3月8日 政府、初めて全国の戸籍調査を実施。総人口三三二万八八五五人(壬申戸籍)。
  - 3月23日 土地の永代売買禁止を解除。
  - 3月29日 東京日日新聞(現「毎日新聞」)創刊。
  - 4月5日 兵部省を廃し、陸・海軍省を設置。
  - 5月4日 神社仏閣の女人禁制を全面的に廃止。
  - 5月8日 東京府、町火消しを全廃し消防組三九組編成。
  - 6月28日 天皇、中国・西園寺のため東京出発(8月15日帰京。全国巡幸の始まり)。
  - 9月5日 文部省、学制を公布。初等教育重視。個人主義男女同一、全国統一の学校制実現を掲げる。
  - 10月14日 新橋-横浜間の鉄道開業式。日本初の鉄道。
  - 10月31日 横浜にガス灯十数基が国内で初めて点灯。
- 1871
- 3月14日 東京・大阪間に郵便開始決定(4月20日、第一便。所要時間、約四〇時間)。
  - 3月28日 労働者の自治政府、パリ・コミューン成立。
  - 4月2日 薩・長・土の藩兵六二七五五人を親兵を編成。
  - 6月27日 新貨幣を制定。新貨幣は円・銭・厘の十進法で、旧貨幣の一面を二円とする。
  - 8月29日 薩摩藩の記号「三」(三)を「明」が成立。
  - 9月23日 散髪、剃刀の自由を認める(明治9年廃刀令)。
  - 10月7日 華族・士族・平民相互の結婚を許可。
  - 10月20日 政府、田畑勝手作を許可。作物制限を撤廃。
  - 11月15日 宗門人別帳(寺請制度)を廃止。
  - 12月23日 岩倉具視、大久保利通ら通米欧使節団、横濱を出発。初の女子留学生、津田梅子も随行。
- 1870
- 1月26日 東京・横浜間の電信開通し公衆電報の取り扱いを開始。電信事業の創業。
  - 2月3日 大教宣の詔。神道で国家思想の統一をはかる。
  - 2月26日 長州藩の奇兵隊など諸藩解散措置に不満の兵士十余人が藩庁を包囲(3月、藩兵が鎮圧)。
  - 3月6日 政府、華族の染織・かき扇を禁止。
  - 3月24日 東京府、和泉要助らに人力車の製造を許可。
  - 4月27日 三河で浄土真宗信徒三〇〇〇人が、排仏論政策に反対し「護法一揆」を起す。
  - 9月8日 政府、在留中国人で、日本人の子どもの買い取って海外へ売るものの厳重取締りを命令。
  - 9月22日 大学南校、初の留学生として自費田種太郎ら四人を米國へ派遣。
  - 10月13日 平民の苗字使用が認められる。
  - 10月26日 兵制を統一。海軍は英式、陸軍は仏式に。
  - 11月2日 岩倉具視、土佐開成商社設立。汽船回漕業開始(12月、九十九商会と改称三葉商會の前身)。
  - 12月12日 工部省設置。殖産興業を推進。





▲国産軍艦第1号「清輝」竣工(明治10年6月22日)当初2600トンで計画されたが、資材不足から897トンに減量。全長61メートル。横須賀造船所建造の鉄骨木造プロペラ船。西南戦争に従軍した。



▲東京大学誕生(明治10年4月12日)初の官立大学として東京開成学校と、東京医学校を再編成、神田に法・理・文学部と、予備門(写真中央、大礼服姿が久保)。

▲屯田兵第1陣、開墾に着手(明治8年5月)土族授産と北方防備を目的に募集。宮城・青森などの土族198戸965人が、札幌郊外琴似村に入植した。写真は其の記念撮影。明治37年の廃止までに、4万人に達した。

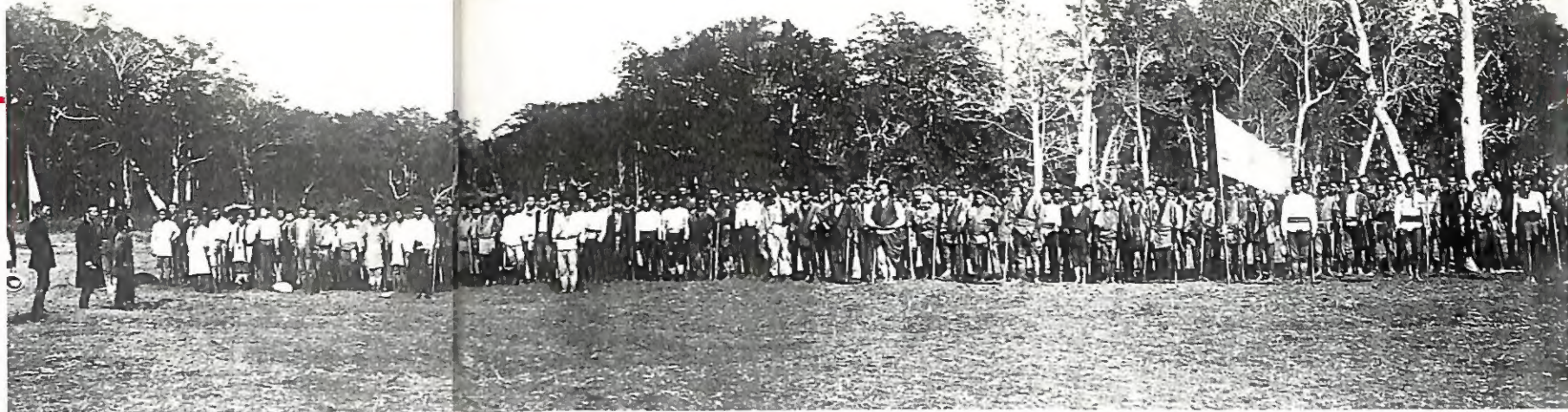
▼第1回内閣勲業博覧会開く(明治10年8月21日)西南戦争中だったが久保利通(48)は、国産奨励を掲げて強行。上野公園会場に八万余点が出品された。写真中央、大礼服姿が久保。

▲銀座煉瓦街が完成(明治10年)明治5年の大火後、政府は欧化政策を掲げて都市改造に着手。英国人・ウォートルスの指導で、銀座を「文明開化」を象徴する煉瓦の街並みに変貌させた。

▼クラーク博士(50)、来日(明治9年7月31日)教育を重視した開拓使が、札幌学校開校のため、米国から教頭に迎えた。写真後列中央が博士。滞日わずか8か月間だったが、その影響は大きかった。



1876  
1月4日●維新以来中絶の出初式が復活。消防組を集め、警庁庁舎前で挙行。  
2月13日●平民もかならず姓をつけるように布告。  
4月10日●東京で天然痘流行。前年米三・四・四人が罹患。  
5月2日●東京と横浜で郵便貯金創設(10月京阪神でも)。  
5月7日●千鳥・樺太交換条約、ペテルブルクで調印。  
6月1日●都市人口膨張で火葬禁止の解除令。  
6月21日●東京気象台設立。毎日三回の観測を開始。  
6月28日●反政府運動取締りのため新聞紙条例を制定。  
7月11日●田中久重、東京・新橋に田中製菓所を設立。電信機械を製作(芝浦製作所の前身)。  
7月18日●文部省、第一回海外留学生を派遣。小村寿太郎、嶋田和夫、古市公威ら一人。  
11月27日●教部省、神・仏各宗に対し信教の自由を通達。  
11月29日●新島襄ら、同志社英学校現同志社大を創立。  
2月14日●米国のベル、電話で初めて肉声を伝える。  
2月26日●日朝修好条約締結。釜山などの開港。日本からの輸入品無税関税など、不平等条約。  
3月12日●官庁、一・六休(毎月1と6の日を休む)廃止。土曜半休・日曜全休に(4月から実施)。  
3月25日●大阪府立書簡館が開館。大阪で初の図書館。  
3月28日●軍人、警察官などの着き、帯刀禁止(薩摩藩令)。  
5月9日●東京・上野公園が開園。  
6月7日●独の医学者、ベルツ来日(二九年開業)。  
7月1日●私立銀行では最初の三井銀行が開業(7月29日、三井財閥の中核企業、三井物産創立)。  
8月14日●札幌学校、開校式(9月、札幌農学校と改称。クラークが教頭として指導にあたる)。  
8月20日●東本願寺、上海に別院創建(海外布教の初め)。  
8月29日●高橋お伝、東京・蔵前の丸竹屋で商人・後藤吉蔵を殺し逃走。明治二年、斬罪。  
10月17日●政府、小笠原諸島領有を各国に通告。  
10月24日●熊本、開明政策反対で熊本鎮台を襲撃。神風連の乱(27日秋の乱、28日秋の乱)。  
11月14日●東京女子師範学校内に初の近代幼稚園開設。  
11月15日●福沢諭吉、『西洋事情』の再刊。  
12月19日●三重・飯野郡で地租増上げに反対の農民一揆。四日市支庁など焼く(23日)処罰五万余人。  
1月4日●政府、全国的な地租改正反対一揆の激化から、地租を〇・五割減し一・五割に軽減。  
2月13日●東京警視庁、流行の場子で風紀を乱す傾向ありとして場子店取締規則を制定。  
2月15日●鹿児島、西郷隆盛捕縛。政府に尋問の筋ありと軍兵(22日熊本城包圍、西南戦争)。



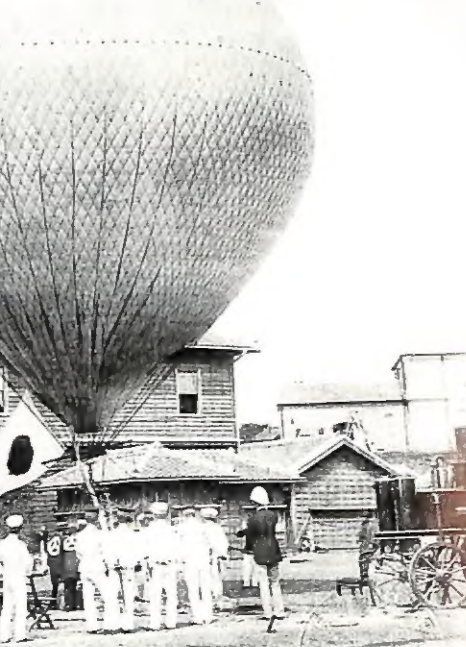
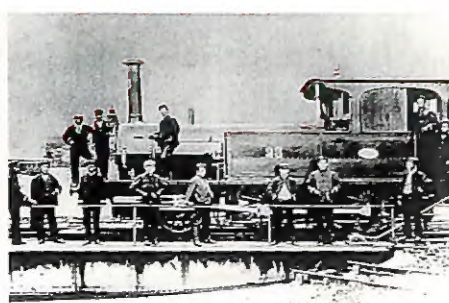
▲「高橋お伝」(29)、死刑(明治12年1月31日)旅館で呉服商を殺害、金品を奪ったとして市ヶ谷監獄で斬首。以前にも夫を殺害していたと言われ、「稀代の毒婦」と喧伝された。

▼気球、天覧(明治11年6月10日)天皇臨席の陸軍士官学校開校式に、布製の長さ16、幅9メートルの気球が上がった。前年来、陸軍の依頼で、馬場新八が実験を重ねていた。



▲日本人機関士デビュー(明治12年4月)鉄道の発達は著しかったが、技術のすべてを外国人にたよった。写真は160型機関車と、技術を修得した平野平右衛門(左端)ら。

▼長崎造船所立神船渠、完成(明治12年5月21日)仏人・フロラン指導で5年前に着工。礎石に「明治八年築、工部卿伊藤博文」とある。長さ130メートル、東洋一と言われ、後に三菱に譲渡。



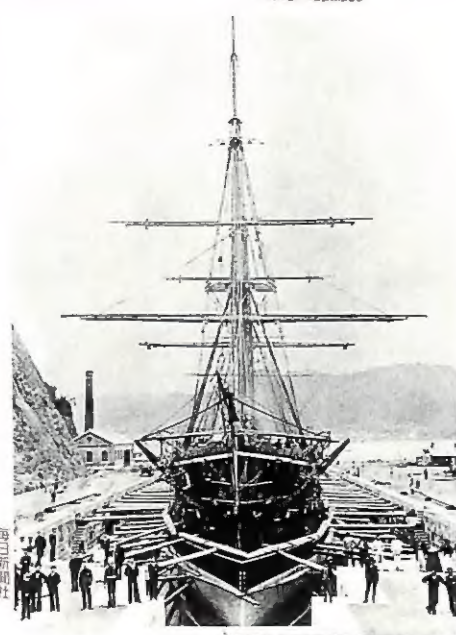
1878  
5月1日●佐野常民ら、西南戦争の医療救助団体として熊本に博愛社創立(後の日本赤十字社)。  
6月1日●万国郵便条約に加入調印。郵便が国際化。  
6月22日●海軍横須賀造船所で初の国産軍艦「清輝」竣工。  
8月21日●第一回内閣勲業博覧会、上野で開会。工芸品など八万余点展示(11月30日、四万余人入場)。  
9月16日●モリス、東京・大森貝塚で初の学術的発掘。  
9月24日●鹿児島で西郷隆盛の自刃(西南戦争終結)。  
12月21日●工務省と宮内省間でベル発明の電話機を設置。  
3月12日●渋沢栄一ら出願の東京商法会議所設立を認可。  
3月25日●東京で電信中央局と国際電信開業式。祝賀会場で国内初の電灯、アーク灯を点灯。  
4月13日●団々珍聞、開拓長官・黒田清隆が妻を新移したとの噂を風刺(発行停止処分となる)。  
5月14日●大久保利通、東京・紀尾井町で刺殺される。  
5月15日●東京株式取引所の設立免許(6月1日開業)。  
6月7日●東京・新富座が新装オープン。舞台内外に方灯など近代的設備。  
6月8日●第一国立銀行、釜山支店開業(日本の銀行では初の海外進出)。  
7月10日●東京・神田に府立脚氣病院設立。  
7月15日●箱根の外国人専用ホテル「富士屋ホテル」開業。  
7月28日●英人・ガランド、槍ヶ岳に登頂。外国人初。  
8月10日●フェノロサ、東京大学文学部教授に就任。  
8月23日●近衛砲兵隊が備給削減などに反対し暴動。大隈重信に発砲(24日、鎮圧。竹橋騒動)。  
10月20日●滋賀・達坂トンネル工事で崩落機を初導入(2月箱根鉄道開通用にタイナミット初輸入)。  
12月5日●参謀本部条例を制定。軍令に関する事項は参謀本部長が管轄。統帥権独立の発端。  
1月25日●大阪で「朝日新聞」、創刊。  
3月14日●松山にコレラ発生。全国に蔓延(この年、明治期最大規模の流行、一〇万五七八四人死亡)。  
3月20日●東京府会が開会。府県会規則による最初の府県会。各府県会も相次いで開会。  
4月4日●琉球藩を廃し沖縄県とする布告(琉球処分)。  
5月21日●長崎造船所で東洋最大の立神船渠が竣工。  
6月16日●仏教慈善団体の福田会、東京に孤児院を創立。  
7月10日●海軍が初めて英国に発注の「扶桑」「金剛」(比叡)三艦が回航され、横浜で天覧。  
8月31日●明宮嘉仁親王、後の大正天皇、誕生。  
10月7日●文部省、音楽取調掛(東京芸大の前身)を設置。伊沢修を御用掛に任命。  
11月30日●松方正義ら幹事の共同競馬会、陸軍戸山学校で第一回競馬会を開催。

証言・あの日この日  
福地桜痴(27)

慶応4年7月7日(然るに此年五月十五日)上野の戦ありて後に、此江湖新聞の筆禍は正に近く余が身にあるべしと密告し、余が通逃を勧めたる朋友もありしが、余は年少の客気に誇りて此忠告に従はざりしに、果たして五月十八日(太陰曆)に至り逮捕せられたり(福地桜痴「新聞紙実録」)若くして2度の洋行を体験し、万国公法(国際法)にも通じ、幕府の外国方として活躍していた福地桜痴も、この頃、幕府瓦解を目前にして、なすすべもなかった。そこで、柳河春三の「中外新聞」の成功に刺激され、みずから新聞発刊を思いつつ。5月24日「江湖新聞」を発刊。そこで佐幕派的立場から立憲政治論を唱える。しかし、あまりにも露骨に幕府を擁護し、薩長を批判したため、この日、逮捕されるが、木戸孝允の働きで放免された。この事件は新聞筆禍事件の第1号となった。(山崎行太郎)



▼フェノロサ(26)、東大教授に就任(明治11年8月10日)お儒い外国人教師として米国から来日。日本美術の再認識を強調した。右・フェノロサ。左は高弟・岡倉天心。



毎日新聞社





毎日新聞社

▼キリスト教会幹部、集合(明治16年5月)明治6年の解禁以来、信者は4300人を超え、第3回信徒大親睦会は開催した。写真前列右端、海老名正、2列目左から5人目が内村鑑三、その右隣が新島襄。

▼鹿鳴館、華やかに開館(明治16年11月28日)東京に英人・コンドル設計、煉瓦造りの西洋風建築が登場。舞踏室は連日、各界の紳士淑女でにぎわい、外務卿・井上馨(47)の欧化政策を体現した。



毎日新聞社

▼上野動物園が開園(明治15年3月20日)上野博物館の一部として、東京・上野公園西端の約1万平方メートルに設置。翌年には熊・水牛・サルなど49頭、鳥類136羽が在園、象など大形獣は6年後からだった。大正13年、公園とともに東京市に下賜された。



毎日新聞社

▼馬車鉄道が開通(明治15年6月25日)東京・新橋-日本橋間でレール上の客車を馬が引いた。10月に浅草・雷門まで延長。馬糞が悩みの種だったが、明治末に市電が開通するまで、重要な交通機関だった。

▼板垣退助、岐阜遭難(明治15年4月6日)自由党総理として演説を終え、宿舎に向かう途中、勤王主義者・相原尚義(写真右)に、短刀(写真左)で刺され重傷。その時、板垣(44)は「板垣死すとも自由は死せず」と叫んだと言われる。



▼日本銀行オープン(明治15年10月10日)旧開拓使東京出張所の建物を借りて、中央銀行がスタート。初代総裁・吉原重俊。大蔵卿・松方正義指導のもと、紙幣整理を強行し通貨安定をはかった。



毎日新聞社

▲「弁慶号」走る(明治13年11月)開拓使・管内鉄道の手宮(小樽)-札幌間に、米田・ポーター社から「義経号」とともに輸入。全長12メートル。大正13年引退、現在、東京の交通博物館で展示。

▼国産技術で完成した初の山岳トンネル(明治13年6月28日)京都-大津間の逢坂山トンネルが貫通。これを機に、鉄道工事は外国人の手を離れた。全長665メートル。7月、東海道線が全通した。



▲真土村事件に有罪(明治13年)地租改正に反対した神奈川・真土村村民が、地主ら7人を殺害したため斬罪を含む判決。しかし明治22年、全員特赦。写真は其の記念。

▲木造外輪船「迅鯨」竣工(明治14年)明治天皇の御召し艦として設計されたが、試運転で損傷、波浪の激しい外洋には不適当と判明。1464トンの、最初で最後の豪華な外輪汽船だった。



▼憲兵隊創設(明治14年3月11日)東京に司令部をおき、軍人・軍属にかかわる犯罪の捜査が主業務。後に民衆運動に介入するようになった。写真は、創立期の東京憲兵第一大隊の将校ら。

明治13~16年

- 1883
- 2月14日●流行の玉突き賭博を一斉摘発、六八六軒、二千三百余人を摘発。
  - 3月20日●上野博物館、動物園が開園。
  - 3月24日●独のソツホ、結核菌の発見を学会で報告。
  - 4月6日●自由党総理、板垣退助、遊説中に岐阜で襲われ負傷(12日、慰問の勅使が派遣される)。
  - 4月16日●立憲改進党が結党式、総理・大隈重信。
  - 4月25日●仏軍、ハノイ占領(翌年、全土を支配)。
  - 5月3日●大阪紡績会社(現・東洋紡)設立。国内最大規模、最新技術の近代工場を建設。
  - 6月5日●露領五郎、東京・下台に道場開く。初年の入門者は九人。明治21年、柔道を完成。
  - 6月25日●新橋-日本橋間に初の馬車鉄道が開通。
  - 6月27日●日本銀行法令を制定。総裁・吉原重俊(10月9日開業発給、10日営業開始)。
  - 7月24日●漢城、現・ソウルで反閔、反日の軍隊が日本公使館を襲撃(壬午軍乱、日本と敵対)。
  - 8月5日●戒厳令を制定。戦争などの国家非常事態に際し、軍隊に統治権限を与える。
  - 8月11日●清原玉、帰国する前工部美術学校教授・ラブリザとイタリア留学へ出発(後に結婚)。
  - 10月21日●東京専門学校(早稲田大学の前身)開校式。
  - 11月1日●東京電灯会社、開業の前夜に銀座でアーク灯を点灯。国内初公開で見物客が多数訪れる。
  - 11月16日●沖縄県、謝花晃ら初の国内留学生五人を派遣。
  - 11月11日●東京の明治会堂で初めて西洋風舞踏会を開催。
  - 3月1日●東京気象台、天気図を作成し毎日の配布を開始(5月26日、初めて暴風雨警報を発令)。
  - 4月11日●文部省、農学校通則を制定。実業教育に関する文部省法令の初め。
  - 5月1日●東京大学、英語による教授を日本語に改める。
  - 5月5日●三池炭鉱で三池集治監の囚人労働開始(9月21日就労中の囚人が暴動放火で四人死亡)。
  - 7月1日●かな文字運動「団体」「かなのくわい」結成。
  - 7月7日●東京・日比谷に鹿鳴館落成(11月26日開館式)。
  - 7月28日●日本鉄道、上野-熊谷間で仮開業。
  - 8月16日●干ばつのため和歌山の四八カ村が分水めぐり大騒動(岡山、京都などでも水騒動続発)。
  - 8月26日●大阪紡績、稼働率増加をはかり夜間作業を行う(この頃から紡績業の夜業が一般化)。
  - インドネシアのクラカタウ火山が爆発し海没三万六〇〇〇人死に。世界各地で異常気象。
  - 10月4日●オリエント急行、パリとイスตันบูล間開設。
  - 10月12日●婦人運動家・岸田俊子、大津で「箱入娘」の題で女権拡大の演説。集会を妨害容疑で拘引。

- 1882
- 1月15日●仏人画家、ピコ来日(陸軍士官学校教師に)。
  - 2月8日●北海道開拓使を廃止。札幌など三府設置。
  - 1881
  - 12月28日●教育令改正。国家統制、男女別学を強化。
  - 1月26日●東京・神田から出火、一万〇〇〇戸焼失。明治最大の大火で銀座・浅草・本町建設の端緒。
  - 2月7日●仏人・レセブス、バナマ運河着工。
  - 3月11日●憲兵条例を制定。軍事警察官の憲兵隊を設置。
  - 4月5日●大日本農会設立。小農政策推進と農政改善を促進(12月17日、大日本水産会を設立)。
  - 5月2日●海軍横須賀造船所で第一号水雷艦が竣工。
  - 7月8日●明治生命保険会社設立。初めての生保会社。
  - 7月21日●閣議、北海道開拓使官有物の払い下げ決定10月、御前会議で廃止決定。明治14年の政変。
  - 7月31日●福島県山崎村で安政疏水の通水式挙行。
  - 10月12日●明治23年に国会開設するむねの詔書。
  - 10月18日●自由党結成。自由派、社会改良を掲げる(11月29日、板垣退助を総理に選出)。
  - 10月21日●松方正義を大蔵卿に任命(松方正義スタート)。
  - 11月11日●初の私鉄として日本鉄道会社設立。
  - 1月4日●軍人、勅諭を發布。忠節、礼儀などを掲げ、大元帥としての天皇への絶対的服従を説く。







## ベストセラー

# 「安愚楽鍋」「五重塔」が描く 「文明開化」と江戸の心意気

時代が明治に入るとともに流行した「文明開化」の実態をとらえ、生き生きと描いた仮名垣魯文の『安愚楽鍋』が明治四年に刊行され、文明開化の気風をいさぎよしとしない面々に大いに歓迎された。

重塔で、この作品が収録された『尾花集』は明治五年に刊行された。

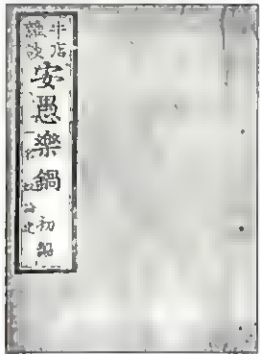


▲「尾花集」(青木高山堂、30銭)  
日本近代文学館蔵(3巻とも)

その第一章にあたる「開場」では「昨晩もてたる味噌を煮、たれをきかせる朝陽り。生のかはりの袴がり連中、西洋書生漢学者流、劉訓に似た儒者あれば、肖相めかす僧もあり。(中略)生鍋食はねば開化不進奴と島なき郷の蝙蝠傘」と、皮肉をたっぶりきかせ、生鍋屋につとう連中をつぶさに観察していった。

目次に並んだのは「西洋好の聴取」「墮落個の物語」「生文人の会談」などで、まるで舞台の上で展開される芝居のような趣があった。また、書きとめられたものには「ラーテコロリ(オーデコロン)」といへる香水や「カナキン」ではたるかうもりがさ、はたまた「びいる」「西洋時計」などがあって、いかにも文明開化の時代を彷彿とさせた。

また江戸の光景を蘇えらせる物語として人気を呼んだのは、幸田露伴の名作「五重塔」で、この作品が収録された『尾花集』は明治五年に刊行された。重塔に、この作品が収録された『尾花集』は明治五年に刊行された。重塔に、この作品が収録された『尾花集』は明治五年に刊行された。



▼「若菜集」(春陽堂、25銭)



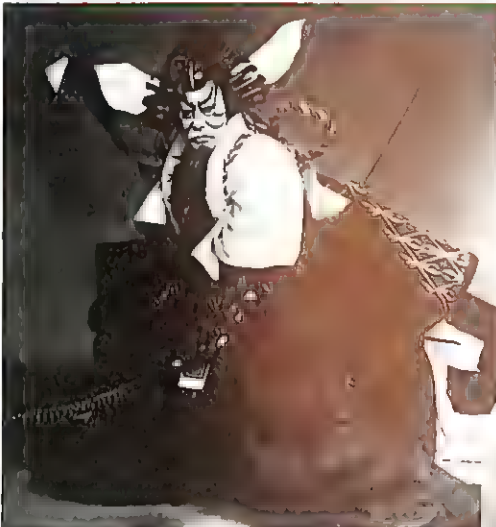
と想ひけり……  
「(初恋)……」  
など、後々まで親しまれることになる有名な詩句も含まれていた

## スターと名場面

# 歌舞伎の「改良」に始まり 新派が人気を集めた時代

エンターテインメントの世界にも、「開化」の波が押し寄せていた。明治七年、九代目市川右太衛門が、市川團十郎は、それまでの歌舞伎のあり方に疑問を抱き、リアルな舞台を追求して、その芝居は「活きた歴史劇」といったニュアンスを持つ「活劇」と評されるほどだった。同時代の花形役者、五代目尾上菊五郎と初代市川左團次とともに「菊・左」と称され、歌舞伎の近代化に貢献した。

一方、国が開けてさかんに海外視察に赴くようになった政府高官たちは、訪問先で観劇に招待されることが多く、劇場が国際的な社交場であることを知った。彼らが帰国後、国内の演劇に目を向けたのは必然の成り行きで、明治九年には政府肝煎りの「演劇改良会」を設立、翌年には、外務大臣・井上馨邸に天皇



▲丸橋忠孝に扮した初代市川左團次  
▲「暫」ばつづくの九代目市川團十郎  
▲「井上小僧」の五代目尾上菊五郎



## モノ語り

# 「文明開化」が生んだ生活用品！ 「福原衛生歯磨石鹸」「サッポロビール」 「直流エヂソン式扇風機」



▲歯にやさしい歯磨きの登場(明治21年) この年、資生堂は「福原衛生歯磨石鹸」を発売、これが大評判となった。当時は、焼き塩などに香料を入れた粉歯磨きしかなく、歯を傷めがちだった。ところがこの歯磨石鹸は、固形石鹸状に練り固めたもので、なめらかで歯を傷めず、歯石を溶解するうえ、口臭を除去するという高品質。粉歯磨きが1袋2〜3銭だったのに対して25銭と高価だったが、ヒット商品となった。

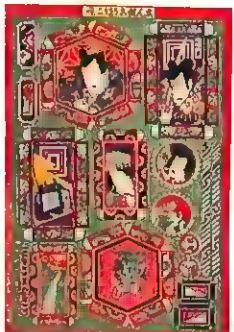


▲持ち運びに便利な照明器具(明治30年頃) この頃誕生した照明器具で、大いに重宝がられたのが「アセチレン瓦斯(ガス)灯」である。下部のガス発生器にカーバイドを入れ、これに少しずつ水をたらしてアセチレンガスを発生させ、上部のバーナーで燃やして明るい炎にした。持ち運びが容易で、どこでも点灯できるので、夜店などでさかんに用いられていた。



## 想像力を刺激する素朴な遊び

「組み上げ錦絵」は江戸時代からあったが、明治以降は「立て版古」「起こし絵」などとも呼ばれるようになった。ペーパーモデルとしては世界に比しても優れたもので、明治時代には歌舞伎の名場面を舞台として組み立てるものや、華族の馬車の組み上げなどもあった。1枚ものだけでなく、3枚続きや9枚続きといった凝ったものもある。写真は「本朝廿四孝」で、明治27年発売のもの。



▲華麗な組み立て遊び(明治28年) 江戸時代から明治時代にかけて流行した遊びに、「組み上げ錦絵」がある。ひとつのテーマに基づいて描かれたパーツを、切ったり折ったりして組み立てて遊ぶ玩具で、テーマとしては切子(きりこ)や香箱(こうばこ)が多く、定番となっていた。

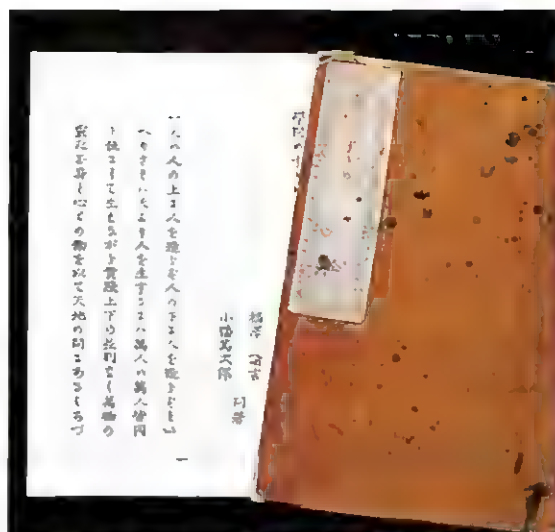
▲遊具としてのカードが人気(明治29年) 賭博の遊具として用いられることが多く、江戸時代にはその所持や使用が禁止されていたカルタに代わって、絵柄のまったく違う花札(はなふた)が、明治時代にはさかんに製造・販売されるようになっていた。写真は、上方屋勝敗堂製の「花符箱」で明治29年製造のもの。桐製箱に、花札のほか、持ち点を示すための「菓子札」やゲームに使う「数取り石」など、花札遊具一式が入っていた。



# 福沢諭吉(三七)

「天は人の上に人を造らず」と啓蒙書『学問のすゝめ』刊行!

福沢諭吉(三七)が「学問のすゝめ」初編を刊行したのは、慶応義塾が東京の芝新銭座(現・港区浜松町)から三田(現在の慶応義塾大学所在地)に移ってほぼ一年後の、明治五年、月のことだった。この、紙数にして、〇枚ほどの小冊子は、前年の慶應義塾にともない、福沢の郷里、大分県中津に設立された市学校の青年たちに、学問の新しいあり方を説くために書かれたもので、いわば福沢の随想録と言っても「うべきものだった」。



▲全17編からなる「学問のすゝめ」。学問論であるとともに、社会論、教育論であり、平易な文体で書かれていた。

「天は人の上に人を造らず」という有名な書き出しで始まる初編が刊行されるや、異常なほどの反響を呼んだ。福沢は当初、これを公にするつもりはなく、人に勧められて公表することにしたという。初編の発行部数は、〇万部だった。以降、「学問のすゝめ」は編を重ね、明治九年、月を最後に、七編を刊行。各編とも部数は、〇万部を下回ることはなく、福沢はみずから、全編で三四〇万部が世に流通したのであろう、と推定している。

明治時代初期、為政者や知識層を悩ませ続けたのは、列強によって日本が植民地化されることへのおそれだった。「学問のすゝめ」は、こうした状態から国家が真に独立するためには、実利主義に基づく学問が重要であること、それによって「身の独立」「国の独立」が得られることを説いたのである。

福沢諭吉は、天保五年、月、日(西暦、八三年、月、日)、大坂・玉江橋北詰の中津藩蔵屋敷(現在の大阪大学医学部付近)に生まれた。しかし、父・百助の急死によって、家は郷里に帰り、成長期を中津で送る。初めて福沢が、中

を切る。

明治八年、「学問のすゝめ」に続いて刊行されたのが「文明論之概略」である。全六巻、〇章からなるこの書物は、「学問のすゝめ」とは異なり、読書階級に向けられたもので、終章においては、自国の独立をはかることを文明の目的とする

津から他所へ出たのは安政元年(一八五四)、九歳の時、長崎への蘭学修行のためだった。翌年、大坂の緒方洪庵の適塾に入門。同四年には塾長に推薦された。安政五年秋、適塾の塾長だった福沢に中津藩江戸屋敷から出府命令があり、屋敷内に蘭学塾を開くことになった。慶応義塾のさきがけである。

しかし福沢は、その翌年、英語の学習を始めた。開港場の横浜を訪ねた時、オランダ語がまったく通じなかったのがその理由だった。この先見の明が、後の大きな飛躍へとつながるのである。

福沢には、幕末に三度の洋行体験があった。最初は「咸臨丸」でアメリカへ、二度目は遣欧使節の随員として、三度

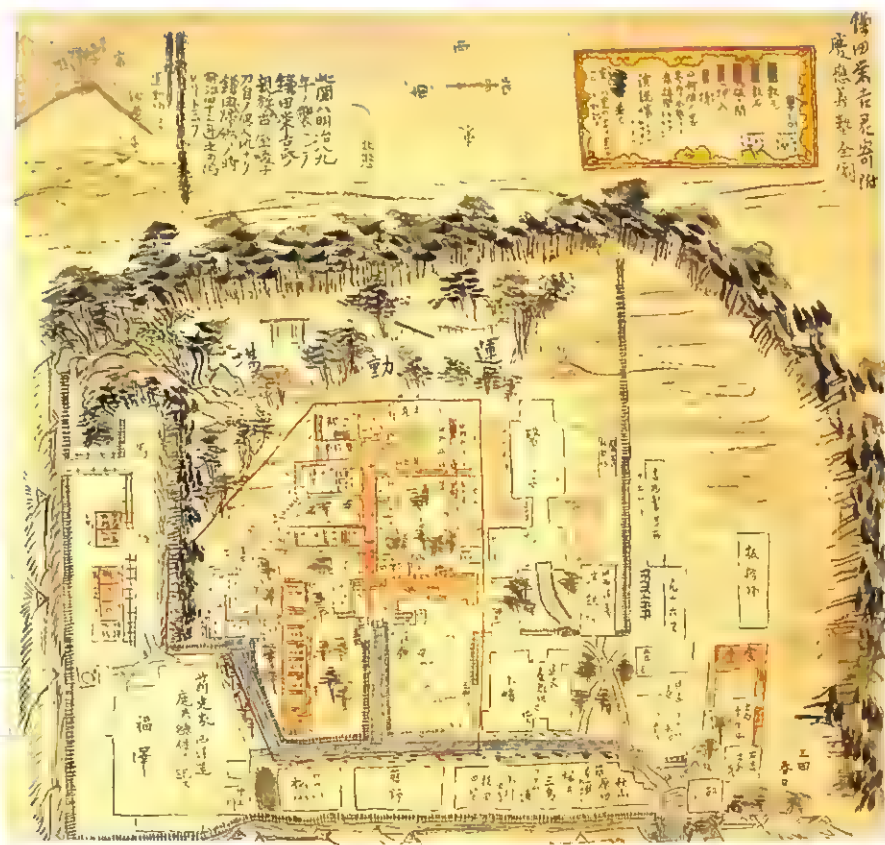
論が展開されている。

「福沢先生が、〇世紀に残したものを特にあげるとすれば、競争と独立ということだと思えます。しかし、これらはまだ十分に達成されていないのではないのでしょうか。健全な社会を築くための公正な競争と、日本人のアイデンティティを

基盤にした独立。これはなお、後世の我々の課題として残されているのです」

慶応義塾福澤研究センター前所長の西川俊作氏は、このように語る。

福沢が亡くなったのは、明治三十四年、月、日。奇しくも、〇世紀を迎えたばかりの時だった。享年六六。



▲三田の台台にあった旧島原藩邸に移転した慶応義塾。当時この建物は講堂と称され、中の広間で講義が行われた。

▲明治8~9年頃の慶応義塾を描いた平面図。北側に医学校や演説場が並び、南側には馬場がある。





# 「ここまでもうよか」と自刃！ 戦闘八カ月もの「西南戦争」で 鎮台兵の前に西郷隆盛完敗

明治新政府は薩摩置県を断行後、その総仕上げとして武士階級の大「リストラ」に踏み切った。折しも、大久保利通を中心とした新政府に反発を強めていた不平士族は、ついに各地で騒起する。それが頂点に達したのは、薩摩令が公布された明治九年であった。

薩摩令に反発して熊本を敬神党（神風連）が騒起し、熊本城を一時占拠。これに呼応して、福岡秋月の乱、山口萩の乱と士族の反乱が相次いで起こった。これらの乱はまもなく鎮圧されたが、ひとたび薩摩が立てば、太政官政府はひとたまりもない、というのはこの頃の常識でもあった。そして、明治一〇年一月二九日、ついに薩摩士族は蜂起した。折からの政府の挑発に激怒した西郷隆盛（当時・四九歳）の主宰する私学校の生徒らが、草牟田村（現・鹿児島市）の陸軍火薬庫を襲い、兵器弾薬を掠奪したのである。



◀西郷軍士官の軍装。右手に持っているのは隊旗。2月14日、西郷軍は「新政厚徳」を掲げ、雪の鹿兒島を出発。

征韓論をめぐって大久保利通（当時・四六歳）らとの政争に破れ、参議・近衛都督の職を辞した陸軍大将・西郷隆盛は、当時、故郷に戻り悠々自適の生活を送っていたが、士族の蜂起には終始消極的な姿勢を示していたという。

しかし、大隅地方で遊猟中に私学校生徒徒らの蜂起を知った西郷は、もはや士族の憤懣をおさえることはできないと判断、蜂起に加わることを決意する。

西郷のもとには私学校党をはじめとする一万、〇〇〇人が参集。続いて、日向の飲肥、佐土原、高鍋、延岡および肥後

などの士族らが加わり、総勢四万人に達した。二月五日、西郷は全軍を七隊に分け、熊本に向けて雪の鹿兒島から進軍を開始した。

ただし、西郷は作戦指揮の前面には出ず、「人斬り半次郎」の異名をとった桐野利秋（当時・三八歳）ら幕僚にすべてを託した。後に、西南戦争が桐野の戦いだったとされるのもこのためである。

容易に撃破できると思われた熊本鎮台だったが、西郷軍は鎮台司令長官・谷干城（当時・三九歳）の善戦に攻めあぐん



◀お偉い外国人 キョッソーネが描いた西郷像。顔写真は1枚も残されていない。  
▲17日間におよぶ激闘が続いた田原坂の戦いは、西南戦争の「関ヶ原」だった。



だ。この間、政府の鎮台兵が続々と九州に上陸。三月に入って包囲された熊本城を救援すべく田原坂（熊本県鹿本郡植木町）方面から猛攻撃に出た。世に名高い「田原坂の戦い」である。

さすがに薩摩士族を中心とした西郷軍は強い。各戦線で政府軍を蹴散らした「ちえすと」と頭を突き抜けるような、薩摩示現流独特の奇声を発して呐喊する西郷軍に、農民出身者が中心の政府軍はおそれおののいた。

しかし、倒しても倒しても、地から湧き出るように増強される近代装備の政府軍の人海作戦に、西郷軍は次第に疲弊する。四月に入り、西郷軍はついに熊本城の包囲を解き、退却を開始した。人吉から宮崎へいたる退却戦の中で、名だたる将士は相次いで戦死。六月に入ると極度の飢えと士気の低下から、投降者が続出する状況となった。

八月五日、宮崎県の和田峠での戦いで西郷は前線に現れ、初めて陣頭指揮をとるが、時すでに遅く、政府軍に敗退。七日、西郷は軍解散命令を出す。そして、西郷に殉じようとする五〇〇人の部下とともに敗走を重ね、九月一日包囲する政府軍の間隙を縫って鹿兒島に帰還。西郷は三〇〇人余りに減った部下を引き連れ、楠の巨樹が生い茂る標高一〇七メートルの城山にたてこもった。

城山を包囲する政府軍は、八個旅団五万人。西郷軍は、じりじりと包囲網をせばめる政府軍と最後の激闘を展開。しかし、衆寡敵せず、運命の九月二十四日を迎える。この日、銃弾を受けて負傷した西郷は、付き従う別府晋介に「ここまでうよか」と介錯を頼み、自刃。ついに城山は陥落し、八カ月間にわたる戦いに終止符を打った。

この戦いで、政府軍は五万八千五百八十八人を動員、その戦費は四・五六万円余におよんだという。『陸軍省第三十年報』によれば、政府軍の死傷者は一万六〇九五人、これに対して西郷軍の死傷者は約一万五〇〇〇人にのぼったとみられている。



▲敗走して鹿兒島に帰り着いた西郷軍は、城山に本営をおき、竹矢来をめぐらし壕を掘って、最後の戦いに備えた。上野戸馬「明治10年戦後写真集」ペンタックス カメラ博物館提供（右ヘントリ）



# 困苦のすえに新技術を習得 「横浜写真」元祖・下岡蓮枝 明治初期の日本を撮る！



▲入浴する女。明治20年頃。撮影者不明。風俗としての裸体写真は、人気が高かった。

幕末の安政六年（一八五九）に開港された横浜港は、明治に入ると首都・東京の外港として著しく発展し、海外から貿易商や観光客が続々と訪れるようになった。これらの外国人に向けて、横浜ではお土産用の写真アルバムが売り出され、飛ぶように売れていった。

このアルバムは、箱根や日光東照宮などの名所・旧蹟を写した風景写真をはじめ、菓子売りや人力車、髪結いを写した風俗写真、芸者や刺青をした男の肖像写真など数十枚をセットにしたもので、中には、冊子〇、現在の貨幣価値に換算すると五〇万円もの値段がつくものもあった。装丁も豪華さを競い、青紙の表紙をつけるアルバムも出たほどである。外国人輸入業者は、これらのアルバムを、写真館に一万部単位で注文し、明治期を通じて数十万冊が海外に渡ったという。

「外国人に向けて横浜などで売り出された、日本のエキゾチズムを強調した写真を、『横浜写真』と称するようにになったのは近年のことです。その中に、幕末から外国人観光客に売られていたアルバム写真も含めるか、明治・明治の後半からさかんに輸出されていたアルバムに限定するか、考え方の違いがあります」と、写真史家の金子隆一氏は解説してくれる。「いずれにしても、印刷紙の鶏卵紙に手彩色した『横浜写真』は、明治の記録として残された日本人像が読みとれる、貴重な資料です」（金子氏）

横浜写真の中には、外国人の異国趣味を満足させるように演出したスタジオ写真もあるが、何気ない日本の風景を撮影したものなど、写真師たちの工夫や努力のあとが見られるものも多数含まれており、興味を引かれる



▲時給の表紙がつけられた、「横浜写真」アルバム。外国人向けに作られ、装丁も華美を競った。



▲下岡蓮枝の自画像。明治初年。湿板写真で、みずからを撮影した絶頂期の作品

明治初年の横浜では、日本写真の開祖の一人とされる下岡蓮枝が本町に開業したのをはじめ、馬車道にはシーボルトに学んだ清水東谷、長崎の写真師・上野彦馬に学んだ内田九一が、そして太田町には日井秀三郎が写真館を開き、肖像写真を撮るかたわら、アルバム用の写真を撮っていた。イギリス人写真家のフェリックス・ベアトが横浜居留地に写真スタジオを開業したのは明治二年、以後、彼は日本各地で撮影した写真をアルバムにして販売するようになった。続いて明治〇年代には桜田安太郎、日下部金兵衛、鈴木貞一らも開業。「横浜写真」は全盛期を迎え、後に中心が東京に移ってから、その人気は衰えなかったのである。そもそも、日本人が初めて写真を手がけたのは、嘉永元年（一八四八）のことである。長崎の御用商人・上野俊之丞が、長崎に着いたオランダ船からダゲレオタイプの写真機材一式を買い入れ、薩摩藩主・島津斉彬のもとで試写したのが始まりではないかと推測されている。日本人が撮った現存する最も古い写真は、安政四年（一八五七）に撮影された島津斉彬像である。

それから五年後の文久二年（一八六二）に、長崎で俊之丞の息子・上野彦馬（四時・四歳）が、横浜で下岡蓮枝（五時・三九歳）が、日本初の職業写真家として開業。ともに、困苦のすえに写真技術を修得し、後に文明開化の化形職業となる写真家への道を後進のために開いていった偉大な創業者とされる二人である。

伊豆・下田に生まれた蓮枝（本名・桜田久之助）は、江戸に出て狩野派の絵画を学んでいたところ、一枚の銀板写真に出会い、興味を持った。写真を教えてくれる人を訪ね、外国船の着く下田や横浜をさがし歩いていた蓮枝は、アメリカ人写真家・ウンシン（ジョン・ウィルソン）に出会う。ウンシンは技術を教えることを決めたが、帰国の際に、当時最新の湿板写真機材一式を蓮枝に譲った。残された薬品の調合も使用方法もわからないまま、蓮枝は実験を続け、生活費にもこと欠き、莫大な借金を作りながらも、ついに実験に成功する。

さっそく横浜の野毛に開業するが、当初、日本人客はほとんど来なかった。写真を撮られると寿命が縮むという迷信が、大手を振ってまかり通っていた時代である。だが、六年後の明治元年、横浜の本町に移った頃には、朝の開店前から行列ができ、夕刻の閉店まで千客万来の大繁盛となった。

こうして「横浜写真」の元祖・蓮枝は、幕末から明治初期の日本の風景や風俗を次々に撮影していった。後に「ゲイシャ」や「フジヤマ」に代表される悪趣味な日本イメージを流布させた張本人として批判されることもあったが、華美で外国人の好みになっような類の写真は、蓮枝以降さかんになったのは確かである。



▲池上本門寺でけられた日蓮上人没後六〇年遠忌。明治四年。撮影者不明。ほとんどブレがない写真、明



## 市立函館博物館五稜郭分館

(北海道・函館市)

旧時代のヒーロー！土方歳三に近代戦の洗礼をあげた箱館戦争の遺品

このミュージアムは、「五稜郭」跡地の五稜郭公園にある。そして外国勢に対する要塞としての「五稜郭」と、榎本武揚率いる旧幕府軍が新政府軍と戦った箱



▲五稜郭タワーから見た「五稜郭」。中央緑地の中に見える白い建物のうち、奥の方が五稜郭分館。その右手に見える空き地が、箱館奉行所跡である。

館戦争(明治元々二年)の陣地としてのそれという、二つの側面から「五稜郭」を視覚化して見せている。

要塞としての「五稜郭」の全体像を見るには、公園に隣接する五稜郭タワーからがいい。絵に描かれたとおりの星形をした要塞が、はつきり見てとれるからだ。しかし、跡地に足を踏み入れ、石垣を仰ぎながら堀を渡り、ミュージアムの前まで行くと、「五稜郭」の歴史が、にわか

に現実味をおびて迫ってくる。

そこには大砲が二門、でんとかまえてあるのだ。箱館戦争で用いられた欧州製の兵器だが、いかにも重そうでパワフルに見える。

このミュージアムの展示が、野外におかれたこの大砲から始まるというのは象徴的だ。というのも、箱館戦争は当時の死の商人をして「武器の見本市」と言わしめたほど、兵器・武器が新・旧とりまぜて多彩であり、大砲は新しい方を代表する兵器だったからだ。

館内には、こうした大砲を積んだ軍艦の図や、大砲から発射された弾丸、撃たれて沈んだ軍艦の破片などが陳列されており、箱館戦争における大砲の意義が、具体的に示されているのである。

一方で、江戸時代の名残である刀が武器として飾られ、さらに、火縄銃からじ



▲箱館戦争を描いた絵。湾内には軍艦が並び、陸地では日輪府軍(左下)と、新政府軍(その右)とが対峙している。「五稜郭」の位置は、絵の左下方にあたる。

連発のライフルまで、あまりに対照的な新旧の銃器が並べられており、また戦士の装いとして、鎧が飾ってある隣に、新政府軍のいかにも機能的な洋式軍服が陳列してある。

このような展示品の中に、新撰組の土方歳三の写真や、同じ新撰組の謀報部員とでもいふべき中島登の描いた、隊員の似顔絵巻を見つけると、感傷的になっ

てしまう。チャンバラ映画のヒーロー、新撰組の面々が、砲弾や銃弾が飛びかう戦場で死に直面していたという事実は、あまりに悲劇的だ。

学生員の保科智治さんは、この箱館戦争を、あくまでも「戦争」であると強調する。あらゆる戦争がもたらす悲惨さと同じか、あるいはそれ以上のものがこの戦争からは読みとれるという。

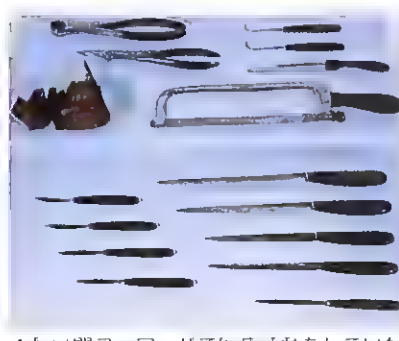
「武器の見本市」であったことも、その証左と言える。時あたかもアメリカ南北戦争の終結直後であり、そこで不要になった、あるいは売れ残った武器もずいぶ



▲五稜郭分館の入り口におかれた大砲。これはイギリス製のブラックリー砲で、旧幕府軍が湾内攻撃のため台場に設置したもの。箱館戦争は近代戦の側面を持って、い

ろいろな角度からリアルに見せてくれるミュージアムであった。

激動な時代の変化とはどういうものか、いろいろな角度からリアルに見せてくれるミュージアムであった。



▲長い間口・口・口で医療活動をしていた医師・高松凌雲は、榎本武揚率いる旧幕府軍について箱館までやって来て、敵味方なく救護した。これはその外科治療用具。

明治政府は近代化を押し進めるため、先進欧米諸国から、数多くの外国人を「お傭い外国人」として招き入れた。彼らの貢献度はきわめて高かったが、それを陰で支えた日本女性がいいた。花・ベルツとクーデンホーフ光子は、ともに来日外国人と結婚し、ヨーロッパに渡った点で共通している。西欧と日本のはざまを苦悩した二人の人生は、「真の国際化」を考えるうえで好個のモデルともなった。

## 官舎の本郷・加賀屋敷で花に一目惚れしたベルツ

「今、国際化が叫ばれ、日本と外国の距離が縮まったと言われていますが、それは形だけで、本心から通じ合っているとは思えません。明治以来ずっと変わってはいないのです。花・ベルツ(元治元、八六四、昭和、九三、九三)とクーデンホーフ光子(明治二、八七四、昭和、六、九四、)の生きざまを知ること、真の国際化とは何かが見えてくるはず。日本が世界の孤児にならないためにも、彼女たちの苦悩や生き方から学ぶことは大きい」

こう語るのは『花・ベルツへの旅』(講談社刊)を著し、現在はクーデンホーフ光子像を追いつけているドイツ在住の眞琴美・シユミット村木さんだ。

花・ベルツは、明治九年に東京医学学校(後の東京大学医学部)の「お傭い外国人」教師として来日し、近代医学を日本に伝えたドイツの医学者、エルヴィン・ベルツ(一八四九、九、一)の生涯の伴侶として、暮れから昭和にかけて日本

# ともに10代で来日外国人と運命の結婚を経験！ 西欧と日本のはざまを生きた“明治の花嫁” 花・ベルツと クーデンホーフ光子



▲1歳の息子・トクを抱く花。ベルツは、明治22年5月23日の日記に、「父になった」とトクの誕生について記している。『花・ベルツへの旅』





▲クーデンホーフ伯爵と青山光子の結婚写真(明治25年3月16日)。伯爵来日2週間目に挙式という、おそろしく急な結婚だった。

聘された「お傭い外国人」は、明治五年から一八年までで約四四〇〇人におよぶ。その職務は、教師、技術者、事務職などと多岐にわたっていたが、彼らは日本にとって貢献度が高かっただけに、非常に優遇された。

ベルツと同じ東京大学で動物学や生物学を講義したアメリカのエドワード・モリス(東京・大森貝塚の発見者)は、「月給の半分を貯金しても、貴族のような生活ができる」と書き残し、ベルツは、温泉地・伊香保に別荘を持っていた。「お傭い外国人」の月給は、おおよそ三〇〇円から六〇〇円。一方、日本の官僚では、太政大臣の三条実美が八〇〇円、右大臣・



▲教会前カンバスに向かう光子。晩年は、ウィーン郊外で余生を送り、2度目の卒中で逝くまで日本の土を踏むことはなかった。

がきっかけである。光子は、八歳、伯爵が三歳であった。四年の任期を終えて帰国する大に從い、ヨーロッパへ渡り、ボヘミア古城の伯爵夫人となった光子の前には大きな壁が立ちふさがった。クーデンホーフ家は、ハプスブルク家と近縁の名家で、東洋人への偏見から、光子への嫁いびりも激しかった。

しかし光子は負けなかった。社交界の名花」と称されるまで洗練された物腰を身につけ、子どもの教育にも情熱を注ぐ。明治三九年五月、四月、四年間連れ添ったハイリッヒが四七歳でこの世を去った後も、夫の遺言に従って子どもたちを立派に育てあげた。特に、次男のリヒャルトは現在の「E.U.」にも通じる「汎ヨーロッパ思想」の提唱者として世界に名高い。そして、光子は太平洋戦争直前の昭和十六年八月十八日、ウィーン郊外で六七歳の生涯を閉じたのである。



▲上州旅行中のベルツ(左)と同僚のスクリハ。官舎では、スクリハはベルツの隣に住んでいた。

とドイツで生き抜いた女性である。二人の出会い、横浜港に着いたベルツが、官舎の本郷・加賀屋敷で生活を始めてまもなくのことだった。住みこみで奉公していた母親・袖を訪ねて遊びに来る、利発で愛らしい花にベルツが一目惚れしたのだ。二人は五年後の明治四年の九月に結婚した。花が六歳、ベルツが三歳の時であった。

当時、東京ではコレラが蔓延していた。花は、大学の講義が終わると率先して患者の手当てをし、疲れはてて帰宅するベルツを心から支え、伝染をおそれて誰も手につけない白衣の洗濯もやりとげた。二人の子どもも授かった。長男・トクは明治三年五月、長女・ウタは明治六年四月に生まれ、家族四人の幸せな日々が続いていた。しかし、不幸が突然訪れる。明治九年四月、ウタが重い肺炎を患い他界してしまったのだ。

明治十三年四月、ベルツはトクの将来を考え、彼を単身でドイツの実家へ送ることにした。そして、花が息子・トクに再会するのは五年後の明治十八年七月。ベルツが大学勤務と明治天皇の侍医を辞し、夫婦でドイツに帰国した時であった。トクはこの時、六歳、五年間の空白は大きく、親子の間には溝ができ、花は体調を崩すことが多くなった。カルチャーショックや言葉の壁も重くのしかかる。

それに最愛の夫・ベルツの死が、追い打ちをかけた。大正二年八月三日、享年六四、ドイツとともに暮らし始めて八年後のことであった。

折から、第一次世界大戦の足音が近づいてきた。トクは戦場から出されていったが、開戦から一年後、一歳年上のヘ

「お傭い外国人」とその給与

人名	国籍	職名	月給(円)	就職年
フルベッキ	オランダ	開成学校教頭	600	明治2
ジュ・ブスケ	フランス	兵部省兵式顧問	600	明治4
モリス	イギリス	工部省電信技師	150	明治4
シャンド	イギリス	大蔵省紙幣寮書記官	450	明治5
ポアンナード	フランス	司法省顧問	700	明治6
ダグラス	イギリス	海軍兵学校教師	400	明治6
ダイアー	イギリス	工部大学校教頭	660	明治6
ベルツ	ドイツ	東京大学教師	337	明治9
モース	アメリカ	東京大学教師	350	明治10
ロエスレス	ドイツ	外務省顧問	600	明治11
フェノロサ	アメリカ	東京大学教師	300	明治11
デニソン	アメリカ	外務省顧問	450	明治13

レーネ・ツェーマンと「戦時結婚」し、戦後は「ルートヴィヒヒスブルガー・ヴェルクシュテット」という建築デザイン会社を設立して自立の道を歩み出した。花は日本への帰国を決意する。人止、年四月、七年ぶりに日本に着いた花は、ひとまず東京・早稲田の親戚に身を寄せ、大正三年には平河町の借家に移り住み、夫が残した遺産を処分するなどして、つましいながらも、ベルツ本人として毅然とした生活を送る。そして昭和五年、先祖が眠る豊川(愛知県)の西明寺境内にベルツ供養塔を建て、七年後の昭和十二年七月、静かに息をひきとつたのである。享年七二であった。

教育に情熱を注いだ光子次男は「E.U.」の提唱者に

ベルツのように、日本の近代化政策をバックアップするために欧米諸国から招



フォト十年表で再現する32年

▶日本赤十字社、誕生(明治20年5月20日)西南戦争で負傷者救護につとめた佐野常民(64、左)らの博愛社が、日本政府のジュネーブ条約加盟により改称。初代社長に佐野が就任した。写真右は、東京・飯田町の本社。



▼巡洋艦「浪速」、日本へ回航(明治19年3月)前月に英・アームストロング社で竣工。3709トン、26センチ砲2門を装備した最新鋭艦。日清戦争に出撃。写真は、自慢の砲と山本権兵衛副長(34、後列右から4人目)ら。



▲「自由の女神」完成(1886年10月28日)米国独立100周年記念に、仏国内の募金による像がニューヨーク湾内リバティ島で完成。高さ約93メートル。仏で作られ(写真)、分解して米に送られた。



▲帝大、初の競漕大会(明治20年4月16日)東大から改称後の第1回運動会に、学部対抗ボートレースを併催。写真は、このために調製した日本最初の大優勝旗と、優勝した法科チーム。



▲三菱長崎造船所オープン(明治20年6月)政府から長崎造船所を買収。前月には、初の鋼鉄製貨客船「夕顔丸」を竣工。以降、日本の造船界を主導、戦艦・豪華客船などを次々建造した。



▲陸奥宗光(43)、駐米公使に(明治21年6月15日)西南戦争での下獄を経て、19年、欧州から帰国したばかり。「陸奥外交」展開への第一歩となった。写真後列左から3人目、左端は夫人。



▲大日本帝国憲法、発布(明治22年2月11日)宮中で天皇が首相・黒田清隆に授与。全国で祝砲が轟き、祝典が繰り広げられた。しかし、国民の大多数はその内容を知らなかった。写真は、東京・永田町の日枝神社の祝賀山車。

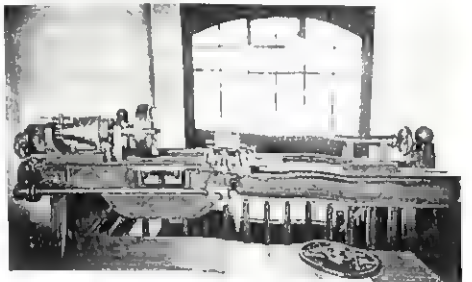


▶「コカ・コーラ」新発売(1887年)2年前にベン・パートンが、コカの葉とコーラの実で作った炭酸水の権利を、米・アトランタの製薬業者が取得、薬局(写真)で「強壮剤」として発売。世界の「コーク」の始まりだった。



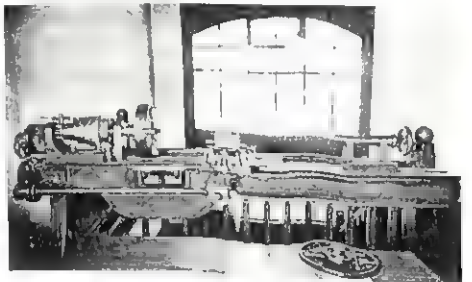
▲「アサヒビール」誕生(明治22年)大阪麦酒株式会社が開業、吹田工場で製造。ビールは、この頃普及した。サッポロ、エビス、キリンなどが林立した。

▼最古の国産旋盤、誕生(明治22年12月)東京で5月に創業した池貝鉄工所が、英国製をもとに9フィート旋盤を完成させた。現在、国立科学博物館に展示。



▶韓梯山、大噴火(明治21年7月15日)10世紀ぶり、突然の大爆発。熱灰と山崩れが山麓を襲った。写真は福島・長坂村で収容の遺体。死者は461人に達した。

◀講道館柔道を完成(明治21年8月)東京・麹町に開いた新道場で、嘉納治五郎(27)が講義。柔術などを応用・集大成した新格闘技の完成を宣言した。



明治19、22年

- 1月1日 ●英領事館が戦争賠償金を受け取る
- 3月2日 ●帝国大学令を公布。東京大学を帝国大学に改組。文・理・医・工の各分科大学を構成。
- 4月10日 ●師範学校令・小学校令・中学校令公布。第一次大戦直後までの学校制度の基礎となる。
- 6月12日 ●甲府の雨宮製糖場の女工百余人、労働強化賃下げに反対してスト(16日、工場主が重歩).
- 7月13日 ●標準時の件公布。明治二年一月一日より、東経一三五度の子午線を標準時と定める。
- 9月1日 ●チャリネ曲馬団が東京で興行。大テント内での象や虎の本格的曲芸が人気呼び連日満員。
- 9月4日 ●米國でアハ・チ族の戦い。モガボラ、最後のイェー、戦い終わる。
- 9月20日 ●大阪紡績、夜間作業の照明にランプに代えてアーク灯を使用(民間初の電灯使用)。
- 10月24日 ●英船「ホルムトン」が、すべ沈没。英人脱出、日本人「アハ・チ」が問題作。
- 10月28日 ●ニコニコックで、日山の女権像が完成。 (殺害五人、強盗八十余人。翌年死刑)。
- 12月6日 ●矢島種子ら婦人運動団体、東京基督教婦人矯風会を設立。庶婦、一夫一婦制の実現めざす。
- 1月17日 ●「あか女性」の編集、アハ・チ。以後、上野動物園に於て、アハ・チ。
- 4月20日 ●首相官邸で大阪義演会開催。鹿鳴館でしばし開催され、欧化主義として非難される。
- 5月5日 ●東京・木挽町でスバラ(ボクシング)とラ(レスリング)が興行。
- 5月18日 ●私設鉄道条令を公布(私鉄に関する初の立法)。
- 6月20日 ●二葉亭四迷、浮城一編を刊行。
- 10月5日 ●東京美術学校、東京音楽学校が開校。
- 10月17日 ●仏領インドシナ連邦成立。
- 10月27日 ●横浜で初の鉄管式上水道の配水開始。
- 11月29日 ●東京電灯、日本橋に国内初の火力発電所建設。
- 12月26日 ●保安条例公布・施行。秘密の結社、集会禁止。危険人物の退去命令など反政府運動の弾圧策。
- 1月4日 ●日本初の通信社・時事通信社が東京に創立。
- 1月26日 ●山陽鉄道会社が設立(11月兵庫・明石間開通)。
- 1月26日 ●第1回日本郵政年表が、産自郵政の発展をみる。
- 2月3日 ●文部省、「紀元節歌」(高崎正風作詞、伊沢修二作曲)を学校唱歌と決める。
- 3月30日 ●上野動物園に於て、アハ・チ。これにより、機械の発展がみる。

- 4月3日 ●三宅雪嶺、志賀重昂ら政教社を結成。雑誌「日本人」を創刊し国粹保存主義を鼓吹。
- 4月25日 ●市制、町村制を公布。行政の効率化で合併促進(翌年末には七万市町村が、万五千余に)。
- 5月14日 ●師範学校令が公布。師範学校を廃し八個師範学校を設け、女子師範学校を設ける。
- 6月1日 ●東京・麻布飯店に東京天文台を設置。
- 7月14日 ●上野動物園に於て、アハ・チ。これにより、機械の発展がみる。
- 7月15日 ●福島・長坂村で収容の遺体。死者は461人に達した。
- 7月18日 ●神奈川県、海水浴場の男女混泳を禁止。
- 8月16日 ●東京市改正条例公布。内務省主導で道路と橋、上水道建設が中心の東京初の都市計画。
- 9月8日 ●森鷗外、独逸学から帰国(翌年から文学活動を開始し「しらかみ草紙」創刊)。
- 10月1日 ●東京火災保険会社が営業開始(初の火災保険会社。安田火災海上の前身)。
- 10月7日 ●新皇居が落成(27日、宮城と改称)。
- 11月12日 ●牧野富太郎「日本植物志図編」第一巻を自費出版(明治24年、全一巻)。
- 11月20日 ●大阪毎日新聞「が発刊」。
- 12月20日 ●特許条例を公布。発明者に特許の請求権を賦与し、一定の審査官が出願を審査し登録。
- 1月22日 ●電報令が公布。電報の運用を定める。
- 2月11日 ●ノルマントン公、モガボラ、最後のイェー、戦い終わる。
- 2月12日 ●黒田清隆首相、地方長官会議で閣内として政党的外に立つとの方針を訓示(内閣閣内主義)。
- 3月31日 ●大阪に高さ四九、九階の遊覧所、凌雲閣落成。
- 4月7日 ●大阪に高さ四九、九階の遊覧所、凌雲閣落成。
- 5月3日 ●幸田延、欧米留学のための横浜出発。ボストン、ウィーンで音楽を学び明治28年帰国)。
- 5月15日 ●大槻文彦編「言海」刊行。明治24年、四冊。
- 6月16日 ●浅井忠、山本芳翠ら、明治美術会を結成。
- 7月1日 ●東海道線、新橋・神戸間が全通。日一は復片道約二〇時間、料金はト等が、七六銭。
- 9月30日 ●大阪のよゑ、ノカハ、ト等、トス。
- 10月18日 ●大阪のよゑ、ノカハ、ト等、トス。
- 11月21日 ●東京・木挽町でスバラ(ボクシング)とラ(レスリング)が興行。
- 12月19日 ●大阪のよゑ、ノカハ、ト等、トス。







A black and white photograph of a theatrical performance on a stage. The stage is filled with numerous performers in traditional costumes, some standing and some seated. The audience is visible in the foreground, seated in rows. The stage is decorated with a large, patterned backdrop and a lattice structure above the stage.

A black and white photograph capturing the devastating impact of a tsunami. A large, turbulent wave of water is crashing over a coastal area. On the left, a ship is partially submerged, its hull and upper decks visible above the churning water. The wave is surging up a steep, forested hillside, with water cascading over the trees. The sky is dark and overcast, adding to the somber and catastrophic atmosphere of the scene. The foreground is filled with the base of the tsunami wave, showing the immense scale and power of the natural disaster.

A large group photograph of the 1906-1907 football team. There are 25 men in total, arranged in four rows. The front row is kneeling or sitting on the ground, with some players wearing helmets. The back three rows are standing. They are posed in front of a building with a prominent doorway on the left. The players are wearing a variety of uniforms, including sweaters, jerseys, and trousers, typical of the era. Some are wearing helmets, while others are bareheaded. The coaches are interspersed among the players, some in civilian attire like suits and hats.

▲ロンドンにタワー・ブリッジ完成(1894年)チームズ川の最下流に、二つの塔を持つ橋が誕生。全長277メートル。船舶通過時に蒸気圧で橋を76メートル上昇させる最新式だった。

1894

1月4日 露、仏両国、政治、軍事同盟を締結

3月12日 堀井新治郎、鷹司版の特許を取得

3月29日 朝鮮(東洋)究が反侵略、反封建掲げ蜂起

5月16日 北村透谷が静養中に絶死、一五歳

5月26日 絹糸輸出関税を撤廃、絹糸輸出促進のため  
(輸出急増し明治29年に輸入額を越す)

6月2日 開港、江口(朝鮮)を決定  
旅団の増設を決定

6月5日 大本営を謀本部に開設(9月、広島に進出)

6月10日 朝鮮公使、大島圭介、陸戦隊を率い京城、現ソウルに帰任、12日先遣部隊、川州到着

●山陽鉄道、兵庫・広島間が開業。

7月9日 別子銅山住友新居浜精錬所の煙突で農民八五〇人が、同所を襲撃し警察官と衝突

3月16日●陸軍、信濃の六個師団増設（四年間で編成）

3月24日●造船奨励法、航海奨励法公布、鋼鉄製大造船建造と、大型船での貿易業に補助金を支出

3月29日●横浜港に中国人スパイ者が上陸（3日死亡。明治期最初のベトナム人）

4月6日●

4月20日●森正道、小児病の脾症は肝油と服用で全癒する脂肪欠乏症（発表）ヒタノノA説の先駆

5月23日●

6月6日●明治美術会脱退の黒田清輝の白馬会を結成

6月15日●陸地方に大津波襲来　方七（一人死亡）（8月31日M七・五の陸羽地震）○九人死亡

7月21日●日清通商航海条約調印、製造業営業権、最惠国条項、領事裁判権などを獲得

9月1日●

11月17日●





証言・あの日この日  
山川捨松 (22)

明治15年11月21日 (その前夜はほとんど眠ることが出来ませんでした。同室の梅も同じです。私達は夜遅くまでおしゃべりをして、ほんの少しまでろんだだけで、その日の興奮が始まったのでした。二時間眠ったのでしょうか。

「陸が見えた」という声に、私達はベッドから飛び起き大急ぎで洋服に着がえてデッキに走り出しました。その通りでした。遙かなるに祖国の山々の線がくっきりと見えているのです(久野明子「鹿鳴館の貴婦人大山捨松」)  
岩倉使節団とともにアメリカに渡った日本最初的女子留学生・山川捨松と津田梅子は、この日、11年ぶりに横浜港に着いた。山川は、アメリカの大学を卒業した最初のアジア人女性で、後に大山巖と結婚。外国人接待に「鹿鳴館の花」として活躍。一方、津田梅子と協力して女子英学塾(現・津田塾大学)を創立する(山崎行太郎)



デフォルバウス



▶外国人居留地を返還(明治32年7月17日) 願の不平等条約撤廃で、治外法権が解消。最後まで残った神戸・大阪居留地が自治体に渡された。写真は神戸の行事務局舎で、相生警察署になった。

▶マルコーニ、無線通信成功(1898年) 伊・発明家がドーバー海峡を越え、英仏51キロを電波で結んだ。写真は3年後、大西洋横断の無線通信を実験中のマルコーニ。1909年ノーベル賞を受賞。

▶米国、フィリピンに軍事介入(1899年2月) 前月、革命議会在共和国の成立を宣言。しかし、米西戦争に勝利して、スペインから領有権を得た米国の出兵で、独立派の夢を砕いた。

▼志賀潔(27)、赤痢菌発見(明治30年12月25日) 北里柴三郎所長の伝染病研究所につとめ、腸菌をきわめていた赤痢菌を研究、菌を特定した。翌年、独自の雑誌に発表。世界の細菌学者の注目を集めた。



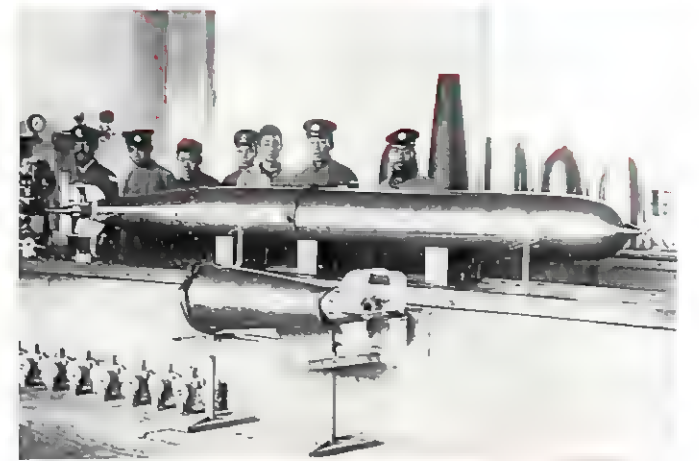
▲別子銅山、めっちゃめっちゃ(明治32年8月28日) 四国・中国地方を襲った豪雨により、各地で大被害。近代化された住友経営の銅山も、山崩れで壊滅的な打撃を受け、死者は584人、122戸が倒壊した。



▼造船奨励法適用の第1号(明治30年) 川崎造船所が、伊予丸の建造(写真)を進水(写真)。大型船建造を進める政府の支援を受け、造船業界の発展はめざましかった。



▼白鳥会第3回展(明治31年10月5日) 黒田清輝(30)が、長い仏留学の成果を問う「湖畔」を出品。4月には黒田が美術学校教授に就任するなど、洋画団体・白鳥会が注目された。写真は展覧会前夜。



▲国産魚雷第1号が完成(明治30年3月) 兵海軍造兵廠が、英国製の魚雷を改良。日清戦争では、この魚雷が強力な武器として決定的な威力を発揮、砲戦中心の海戦を変えた。海軍は、推進機関改良など性能向上に着手した。



▶日本初の労組結成(明治30年12月1日) 米国帰りの高野房太郎・片山潜らが設立した労働組合期成会会員のうち、1184人が鉄工組合を組織。写真は、東京の本部。翌年から鉄道、印刷の組合もでき、労働運動が始まった。

▲巡洋艦「扶桑」沈没(明治30年10月29日) 日清戦争で連合艦隊の旗艦となった「扶桑」と、愛媛県沖で操艦ミスにより衝突。翌年、引揚げられ(写真)、日露戦争に従軍した。



▶上野に西郷隆盛像が完成(明治31年12月18日) 除幕式に第の従道、勝海舟らが参加。西郷の人気は西南戦争後でも、「生存伝説」が語られるほど高かった。建築費は2万5000人の募金により、高村光雲が制作した。

1899

- 2月1日 ●東京、大隈内閣成立。内相板垣退助(初)の政党内閣。いわゆる隈内閣。
- 2月7日 ●実業学校令公布(8日、高等女学校令公布)。
- 2月27日 ●初の木下尚江、向井正光。
- 3月2日 ●アイヌ民族に対する北海道旧土人保護法公布。
- 3月14日 ●正岡子規、根岸短歌会を始める。
- 3月29日 ●中、上野公園で、上野動物園を研究。
- 4月14日 ●海軍、下瀬火薬製造所を東京に設置。
- 4月30日 ●横山源之助、日本之下野社会、刊行。
- 5月15日 ●韓国、京に鉄道設立(社長・張弼栄)。
- 5月18日 ●ハグで日本も参加し、第一回万国平和会議。
- 5月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月20日 ●東京、歌舞伎座で国産映画初上映。駒田好孝製作の人気者の舞踊、銀座の風景など。
- 7月10日 ●天皇、東京帝大卒業式に出席。成績優秀な卒業生に銀時計を初めて下賜。
- 7月15日 ●電機保安法公布。軍事秘密の漏洩などを処罰。
- 7月17日 ●各同との不平等を改めた各種改正条約施行。
- 7月20日 ●日本漁業協会設立。漁業を奨励。
- 8月4日 ●日本支那、東京、新橋に忠臣蔵の演劇。
- 8月15日 ●森永太一郎が菓子製造、明治の始まり。
- 8月28日 ●台風襲来、別子銅山の崩壊。四ノ谷の崩壊など中国地方中心。
- 9月26日 ●台湾銀行開業。台湾開拓の中心。
- 12月16日 ●東京の土木完成、愛媛県水産会館が完成。

1898

- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布。陸軍大將、山縣有朋、海軍大將、西郷従道に元帥の称号を授け。
- 2月24日 ●日本鉄道の機関車に解雇反対に鉄道のスト、上野、青森間が連休。27日解除。要求通り。
- 4月1日 ●警視庁、上野公園で開催予定の労働組合期成会大運動会に対し禁止命令。
- 4月10日 ●東京で興業、〇年祭実行。大行列、仮装行列などの催しに上野。〇万人含め最高の人出。
- 4月19日 ●日銀、日清戦争後の金融通済のため公債買入れを開始。日銀初の市場操作。
- 4月25日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 6月1日 ●警視庁、自転車急増で取締規則を制定。
- 6月10日 ●地租増徴案が否決され、衆議院解散。
- 6月11日 ●上野公園、上野動物園を研究。
- 12月1日 ●鉄工組合が発会式。初の近代労働組合。
- 12月25日 ●志賀潔、赤痢の病原菌を発見と発表。
- 12月31日 ●全国の尋常小学校の授業料は月額六銭一厘。
- 1月1日 ●大阪商船、揚子江沿岸航路、上海・漢口線開設。
- 1月20日 ●元帥府条例公布



俄  
 が  
 樂  
 らく  
 害  
 た  
 術

◀明治19年、初めて本郷の運動場(現存)で開かれた、東京大学と予備門合同の運動会。

流行語

**博奕場こそ本物の学校！**

「新学校」。博奕または博奕場のこと。明治に入つて、大々的に学校作りが始まつた。しかし「学校で習うことは役に立たぬ。博奕場こそ眞の学校」という意味で、この言葉がさかんに使われた。

「ドンブリ」。田舎者のこと。身体も洗わず、風呂にドンブリと入る意。東京の人口が再び、〇〇万人

を突破した明治五年、流行した。「がんす」。明治五年、五代目尾上菊五郎が歌舞伎座で「塩原多助

社  
会

・代記」を上演 多助の故郷・上州の「がんす（ごさいます）」という方言を使ったのが流行のもと。「軍楽隊」日清戦争の時の流行語で、芸者や舞妓のこと 娼妓のことを「伏兵」、割烹着の仲屋を「赤十字社員」とも言った。

教育

る。そのわけを聞くと、(昨年  
神風連の乱に加わった)暴民の  
杖刑が行われ、杖で打たれた傷に  
つけるため大勢が買い求めるから  
という。一四〇〇・一五〇〇人も  
の杖刑となれば、さもあらん！  
〔熊本新聞〕明治。〇年。〇月。  
六日)

## 小学女生徒の退学続出

【京都発】 京都近郊のある小学校では体操の科目を設け、美しいとさんやかわいいいさんに、とさん、四の字令で股を広げさせるなど、あられもないかつこうをさせるため、両親が心配して退学させるものも多いという

「東京日日新聞」明治、五年七月

・（二）

## 戰場

さすがは大阪商人  
移動風呂で大儲け

〔大阪発〕 日清戦争で戦地に出か  
けて儲けた大阪商人は、ずいぶんい

三面記事

「生き胆を取る」と誤解

〔千葉巻〕コレラ流行の折、コレラ避病院では、治療をせず、病人の生き胆を取るという噂が絶えない。千葉県下ではこのほど、そうした誤解による惨劇が発生した。

長狭郡員渚村（現・鴨川市）の

旅人宿・麥屋に止宿していた旅人が、先月・九日コレラにかかったため、近くの医者・沼野甚昌を招いて診察してもらったところ、「まじりもなくコレラである、他人にうつしてはならぬ」と、同区の区長、戸長と相談のうえ、石子山堂というお堂に移して治療を行った。しかるに土地の漁師がこれを知りつけ、「旅人を遠い石子山堂へ連れて行き、生き胆を取るつもりだ。ひどい奴だ、打ち殺せ」と、早鐘をつき鳴らした。その合図に竹六〇・七〇人の徒党が手に手に竹槍、棒、鋤を持って集合。沼野氏らは八方から取り巻かれ、竹槍で数

珍商

た。

「大阪日報」明治・○年・二月・三日

**珍商売**

元帝大総長らが発起人  
学資無駄使い防止会社

地方から東京へ遊学するもので次第に華美の風に染まり、放蕩ほうどうに流れて学業を中途でやめるもののが少なくない。警察の調べでは昨年一年で、情死、詐欺、または娼妓に溺れて学業をやめたものが百七十余人におよび。

これは学生が学資を自由にできる点に原因があるとして、このた

風俗

契約書で誓い合った  
女義太夫と女髪結い

〔京都発〕 京都・祇園新地の女藝  
太夫・小原染松（二〇）は、女藝  
結いの安井タメ（二〇）にひかれ  
ある夜、割烹店に誘つてその思  
を伝えたところ、タメもまた染松  
を憎からず思つていたことがわか  
つた。以来、二人は切つても切れ  
ぬ仲となり、染松からタメへ次  
ごとき契約書を出して、終生愛

この年の初もの

新商売の「靴磨き」が  
明治三三年、上野に登場

●**犬の生命保険会社** 明治七年、京都保犬会社が誕生。犬の病死、撲殺に行方不明を補償

●**酒の一合瓶** 明治八年、松正宗<sup>マサナリ</sup>がそのままお燗<sup>カマ</sup>できるようにと売り出したもので、一合瓶（一合、勺入り一六錢五厘）

●**石油発動自転車（バイク）** 明治九年、狩猟家の上文字信介<sup>ノジマノリノスケ</sup>がアメリカから輸入。台子門、汽車より倍早い。かうたい文句

●**ブラウン管** 明治十年、ドイツのブラウンが発明

はやり歌

トコトンヤレ節  
 一天万乗のみかどに  
 手向いするやつを  
 トコトンヤレトンヤレナ  
 ねらいはずさず  
 どんどんうちだす薩長土  
 トコトンヤレトンヤレナ  
 宮さん宮さんお馬の前に  
 ひらひらするのはなんじやいな  
 トコトンヤレトンヤレナ  
 あれは朝敵征伐せよとの



▶菊花紋が縫い取られた馬場。トコトンヤレ節は、薩長土を主力とする二藩の兵士が旗の御旗をひるがえして江戸に進軍した際歌われた。流行歌第一号。

錦の御旗じゃ知らないか  
トコトンヤレトンヤレナ  
ふしみ鳥羽淀はし本  
くずはのたかいかい  
トコトンヤレトンヤレナ  
薩士長しのおおたる  
手ぎわじゃないかいな  
トコトンヤレトンヤレナ  
**お江戸日本橋**  
お江戸日本橋七ツ立ち 初上りのぼり  
行列揃えてアレワイサノサ  
コチャコチャ高輪夜明けの 提灯消すとちんけ  
コチャエ コチャエ  
恋の品川女郎衆に 袖引かれ  
乗りかけ御馬の鈴が森  
コチャコチャ大森細工の 松茸を

コチヤエ      コチヤエ

六郷渡りて川崎の  
萬年屋  
鶴と亀とのよね體頭  
コチャ神奈川急いで  
程ガ谷へ  
コチャエ コチャエ  
痴話と口説を信濃坂  
戸塚まへ  
藤沢寺の門前で  
コチャ止めし車を綱で曳く  
コチャエ コチャエ

▲明治初年の日本橋。「お江戸日本橋」は、明治に入って復活した江戸の俗謡。東海道五十三次の宿場名が、読みこまれている。

明治五年、居留地の中で日本人が開業した西洋床屋

▲貿易商の「クラブ」は、明治18年、長崎から東京に移住。前列右がグラバー、後列中央は長女 ハナ。

CM100年

票告

長日、上ハ例年  
の廣告にあれば  
之を略シ、格本月  
十九日は小賣店  
開業の四周年に  
當れば、甚に諸彦  
御禮と申進候。  
就てハ御來尙、一層  
勉強、生薄利を旨と  
不相替、正札一、  
厘も負ひ、之を御  
承知の上、多少に  
限御謀求の程、伏  
奉希候。謹白

金銀模印時附品  
掛針時附品  
及眼鏡數品  
晴雨計數品

大坂角見町四丁目廿番地  
御賣安田源三郎  
小賣店安田源三郎

▲明治18年、時宝堂は開業4周年を記念して、時計を擬人化した漫画広告を打ち出した。

▲G ヒゴ一画「黒田清輝の裸体画に驚く人々、黒田は明治28年、内国勸業博覧会に「朝妝 ちようしやう」を出品、話題を集めた。」(日本書画資料館提供)



# 不平士族、右翼壮士が斬奸状を懷に要人を襲う 横井小楠、大村益次郎、広沢真臣……血塗られた明治「暗殺の系譜」 明治二年「大久保利通暗殺」事件！

幕末から明治初年代にかけての日本は、混乱のきわみにあった。幕藩体制から天皇親政へ、攘夷から開国へ、江戸から東京へと、すべてが大きく、しかも急速に転換したからである。こうした変化は守旧派と開明派の対立を生み、新政府に対する不信感を醸成する。そうした混乱の中に、「暗殺」という名のあだ花が咲いたのであった。

## 明治新政府の高官に容赦ない「斬奸の剣」

明治二年五月、四日前八時、参議兼内務卿の大久保利通（当時・四七歳）を乗せた、頭立ての馬車は、霞ヶ関を抜けて紀尾井町にさしかかる。この日は朝から、今にも雨が降り出しそうな空模様だった。

突然、手に花を持った兵児帯姿の男、



▲「玄洋社」元社員、土島恒吉



所で除族のうえ斬罪を宣告され、その日のうちに東京・市ヶ谷監獄で処刑された

## 不平士族暴発から右翼壮士のテロへ

明治初期の日本の歴史は、「暗殺」という名のテロで血塗られていた。「御一新」による価値基準の転倒に対応できなかった不平分子が、さまざまな形で暴発したもののだが、「斬奸の剣を振るう」という、人よがりの大義名分は、およそ理解しがたいものであった。

慶応四年（一八六八）三月三日、参内途上のパークス英国公使が攘夷派の浪人、人に襲われた。パークスに怪我はなかったが、英兵八人に重傷を負わせ、新政府は対外的な対応に苦慮している。また、「今度夷賊に同心して天主教を海内に蔓延せしめんとし……」との斬奸状を懷に、奈良・上津川郷主らが横井小楠参予（当時・五九歳）を襲殺したのは、明治二年一月五日のことだった。開明

▶重傷を負った大隈重信（中央）。大隈が進めていた条約改正の内容が「日本」に記載され、右翼が激昂。爆弾テロによって、大隈の改正案は、その右胸とともに吹き飛んだ。

人が、馬車の前方よりけ出た。馬丁の小高芳吉は、とつさに馬車から飛び降り、馬車の前に駆けだす。

「おい、おいっ」

注意をうながしたとたん、いきなり刀による一撃をあげた。刀で帽子を切り裂かれた芳吉は、助けを求めて近くの北川宮邸めがけて全力で走る。だが、襲撃者は人だけではなかった。「左の方に板もて開ひたる街（公衆便所）の陰」

（東京日日新聞「明治二年五月五日」）

から、肌脱ぎになって白刃をかざした、四人の男が現れたのである。六人は車中の大久保に殺到する――

「人の凶徒が頭を日かけ支へられし手と共に肩間より目際まで切り付け、車より引出して乱刀に切り倒して、短刀を採り直し留めを刺さんと頭の横より頸際まで貫きしまま抜きもせず……」（同前）

大久保利通を暗殺した刺客たちは、宮内省に出頭し、堂々と「拙者どもは只今、紀尾井町において大久保参議を殺害に及

びたり」と口上を述べた。名乗り出たのは、首謀者の島田一良（石川県上族）を筆頭に、長連豪（同）、杉村文（同）、杉本乙翁（同）、脇田巧（石川県上族）、浅井寿篤（島根県上族）であった。

西郷隆盛に心酔する島田は、維新に乗り遅れた加賀藩の名望を回復するために、「朝鮮・番乗り」を旗印とした忠告社を主宰していた。ところが、西郷らの征韓論が破れ、島田らの願いは水泡に帰してしまつたのである。かくなるうへは、大久保を暗殺するしかない。島田は決行の同志を募るとともに、大久保に対する次のような「斬奸状」を準備した。

「西郷、桐野（利秋）等世に有つては、奸吏輩大いに畏懼する所あり、まだ其私曲を極むるを得ず。今や彼の徒、已に逝くを以つて奸吏輩復た顧慮する所無し……因つて當時の奸魁の斬るべき者を数ふ。曰く、本戸孝允、大久保利通、岩倉具視、是れ其の最も巨魁たる者……」

七月七日、島田らは司法省臨時裁判



▲大久保利通には西郷同様蓄財の念がなく、遭難後遺産を調査したところ、現金はわずか140円、8000円もの借金があることが判明した。



▶大久保の暗殺者。左から杉村文、脇田巧、杉本乙翁



▶西郷に心酔した首謀者 島田一良

明治二年九月、西南戦争が終わると、武力によって政府に反抗する勢力は姿を消し、代わりに「自由民権」をスローガンとする新たな反政府運動が開始された。明治四年には、国会開設の詔勅が下り、これを機に、板垣退助の自由党、大隈重信の立憲改進黨、政府主導の立憲帝



# 維新の目撃者、サトウが 執筆した日本旅行ガイド

佐伯修

イギリスの外交官、アーネスト・メイソン・サトウ（一八四三〜一九一九）は「外交官の見た明治維新」などによって、幕末・維新の目撃者として名高い。サトウが初来日したのは、文久二年（一八六二）のことであり、駐日公使としての任務を終えて、最終的に日本を去るのは、明治三年、つまり一九〇〇年のことであった。その間、明治二年から三年にかけてと、同、六年から二八年にかけてのブランクはあるものの、彼は、日本の近代のうちで一九世紀の期間を、ほぼ見とけたわけである。



▲佐藤愛之助、または薩道の日本名を持つ。

あげられる。サトウらのこのガイドブックは、後に、チェンバレンやメイソンによる相次ぐ改訂を経て、一九二〇年代まで愛用されたという。

さて、このガイドブックの改訂第二版には、外国人旅行者に携行が義務づけられていた「内国旅券」の申請法や、旅先では、円紙幣が最も便利なこと、日本の草鞋と綿脚絆があると行動しやすいこと、食料は牛肉と鶏は入手困難なのでコンビーフの缶詰などを持参するといった、ビールやワインは大きな町なら入手可能なことなどがこと細かにアドバイスされている。さらに、動植物学や、美術に関する解説は、学術書並みの詳しさを、たんなる旅行ガイドブックというより「博物誌」を感じさせる。

そんな改訂第二版から「旅宿」について「旅籠」と呼ばれる日本の旅宿は、夕食、宿泊、朝食を含む、本化された料金となっている。料金は地域によって異なるが、人につき最低十銭から十五銭の間である。提供された食事に加えて食物や酒を注文した場合は別途にその分を支払わなければならない。用意された薪炭、灯火、給仕、風呂、お茶などの与えられたサービスを利用する限りはそれらの料金を支払う必要はない。しかし部屋に案内されてから間もなく従者を通じて「茶代」として女中に心付を提供するのが普通である（庄田元男訳「明治日本旅行案内上巻カルチャー編」より）



▲英国公使パークス（写真）が攘夷派に使われた際、暴漢を退けた後藤象二郎には、英国からサールベル一振が贈られた。

右翼壮士の暴挙である。テロはさらに続く。森文相暗殺からわずか八ヵ月後の、〇月、八日、今度は大隈重信外務大臣（当時、五・一歳）が遭難した。右翼結社「玄洋社」元社員、米島恒喜（当時、二九歳）が、大隈の馬車に爆弾を投げつけたのである。大隈の条約

そして、大日本帝国憲法発布の日の明治三年二月一日には、森有礼文部大臣（当時、四一歳）が暗殺者の手にかかった。暴漢は山口県平族の西野文太郎（当時、二二歳）で、参内のために大礼服姿で出かけようとしていた森の腹を出刃包丁でえぐったのである。欧化主義者の森が、伊勢神宮参拝時にステッキで御簾を揚げたという「不敬」の噂に憤慨した、右翼壮士の暴挙である。

政党が相次いで結成された。そして板垣、大隈両総理は、勤王主義者、右翼によるテロの洗礼を受けることになる。まず、明治一五年四月六日に板垣（当時、四四歳）が襲われた。短刀で刺された板垣は、「板垣死すとも自由は死せず」の名文句を吐いたと伝えられるが、幸い傷は浅く暗殺は未遂で終わった。刺客、相原尚義は、政府の自由党政権に影響を受けた愛知県の士族だった。



▲長州藩士大村益次郎は、上野恩賜公園で討てり上野の総司令官をつとめた。行旅から、国民皆兵を企図し、テロリストに襲われた。腕を振った。



明治維新の歴史博物館蔵

改正案を「国辱」と考えての凶行であった。来島は爆弾を投げた直後に短刀で喉を突き、その場で絶命した。一方、重傷を負った大隈は命はとりとめたものの、右腕を失うことになってしまった。世界の列強に肩を並べようと無理を承知でひた走る日本の「ひずみ」は、この後も要人暗殺という形で噴出し続ける



▲外交官、教育家として活躍した森有礼は、明治八年二月六日、福沢諭吉を証人に契約結婚して、そのハイクラブリが話題を呼んだ。

## 往きて 還らぬ



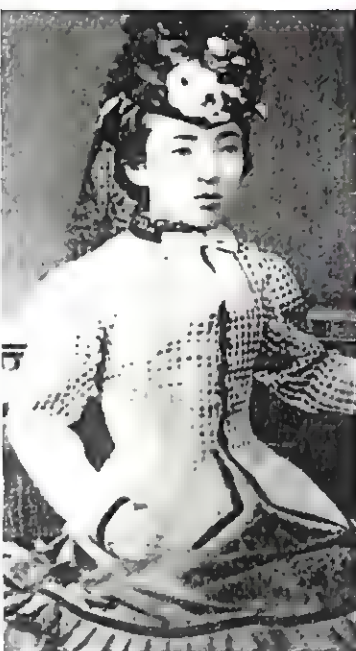
▲明治元年4月25日 近藤勇(33)  
幕末の新撰組隊長。池田屋事件などで活躍。慶応4年、鳥羽・伏見の戦いに敗れ、下総・流山で官軍に投降、斬首。



▲明治7年4月13日 江藤新平(40)  
政治家。幕末、尊皇運動を展開。維新後は文部大輔、司法卿などをつとめるが、「佐賀の乱」の首領として刑死。



▲明治10年5月26日 木戸孝允(43)  
政治家で、通称・桂小五郎。幕末の尊皇派リーダー。維新後、「五箇条の誓文」起草し、廃藩置県を推進した。



▲明治10年9月2日 和宮(31)  
仁孝天皇の第8皇女。文久2年、公武合体のため将軍徳川家茂に降嫁。家茂死後は別荘、静寛院宮と称した。



▲明治16年7月20日 岩倉具視(57)  
公卿、政治家。討幕運動の陰の指導者。明治4年、右大臣。特命全権大使として渡米、明治国家の礎を築く。



▲明治18年2月7日 岩崎弥太郎(50)  
実業家。三菱財閥の創設者。明治7年、征台の役で軍事輸送に協力、以後海運業を独占、経営の多角化を進めた。



▲明治21年11月5日 狩野芳崖(60)  
日本画家。幕末は国事に奔走、明治17年、第2回内閣絵画共進会で「桜下勇駒図」が褒状。日本画の近代化に貢献。



▲明治24年2月18日 三条実美(54)  
政治家。幕末、尊皇派公卿の中心人物となる。維新後、太政大臣、首相をつとめ、引退後は華族社会のまとめ役になる。



▲明治26年1月22日 河竹黙阿弥(76)  
幕末、明治期の代表的な歌舞伎作者。安政元年「都鳥廊白浪」で認められる。ほかに活劇「二張弓千種重藤」など。



▲明治30年1月31日 西周(67)  
啓蒙思想家で、日本初の西洋哲学者。東京師範学校校長、貴族院議員などを歴任。「古・新論」致知啓蒙を刊行。



▲明治27年5月16日 北村透谷(25)  
詩人、評論家。浪漫主義文学の代表者。明治22年、「楚囚之詩」刊。26年、島崎藤村らと「文学界」創刊。自殺。



▲明治31年11月12日 中浜万次郎(71)  
高知出身で、出漁中に遭難し鳥島漂着。半年後米船に救助され渡米、嘉永4年、24歳で帰国。開成学校英語教授。



▲明治32年1月19日 勝海舟(75)  
幕臣、政治家。万延元年、「咸臨丸」を指揮。慶応4年、西郷隆盛と会談。「城無血開城を成功」し、



# 週刊日録20世紀









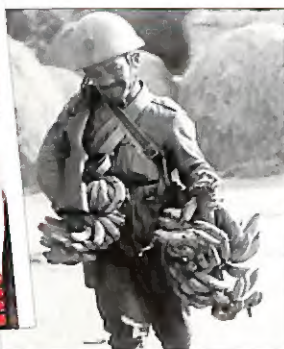
# おかげさまで全100巻完結。スペシャル20巻がスタート!



## 週刊 YEARBOOK 日録20世紀

スペシャル[1] 2月23日(火)発売  
定価560円 本体533円  
毎週火曜日発売 講談社

### 日中戦争全記録!



●特集  
「独占公開」幻のニュース写真「日中戦争」戦禍と悲劇の「決定的瞬間」日本軍「謀略」工作の暗雲! 南京、汪兆銘政権の「末路」元隊員が人体実験、細菌戦の実態を証言 裁かれなかった七三一部隊の悪業! 「召集」と「出征」のシステム 日本軍を自滅させた「赤紙」乱発! 兵はなぜ帰還できなかったか! 降伏「八・一五」以降の中国戦線

●ニースファイル  
フォト重要日録で再現する日中戦争! 第二次「上海事変」勃発(昭和12年8月13日) 徐州作戦(昭和13年5月5日) 日本軍、武漢三鎮を占領(昭和13年10月27日) 日本軍、海南島上陸(昭和14年2月10日) 汪兆銘政権、日本軍と合同の「清郷工作」開始(昭和16年7月1日) 大陸打通作戦、開始(昭和19年4月17日) 連合軍のレド公路が全通(昭和20年1月27日)

●クロースアップ①  
「千人針」慰問袋など、絆の数々  
●クロースアップ②  
重慶を支えたこれが「援蒋ルート」だ!



日録20世紀専用バインダー  
高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」を10冊ずつ年代順にバインダーに収めておけば、10年ごとに分類するためのシールも添付しました。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円(税別)。全国の書店でお求めください。



●クロースアップ③  
中国人被害者が日本軍の暴虐を告発!  
●時代の証言: 保田與重郎、森崎湊、ノ語り・日中戦争「陶器製電灯笠」  
聞き書き「今だから話そう」...元軍医がかす「手術演習」の実態、外から見たNIPPON: 林彪と平型関の戦い  
●映画: 原節子「新しき土」はやり歌「支那の夜」/雑誌: 写真週報「創刊! 笑い」エノケン「ちやっさり金太」

### 「日録20世紀スペシャル」今後の刊行予定



スペシャル第2号 太平洋の戦い!!



スペシャル第3号 悲劇の島・沖縄!

2 太平洋の戦い! (3月2日発売) ●「独占公開第2弾」幻のニュース写真「太平洋」玉砕の島々! ●ガダルカナル島と兵たちの無念 ●さらば、「ラバウル航空隊」! ●軍事費2200億円! 吸い上げの大口 ●激闘74日! ペリリュー島の攻防

3 悲劇の島・沖縄! (3月9日発売) ●「独占公開第3弾」幻のニュース写真「悲劇」最後の地上戦(沖縄の戦い) ●「沖縄県民カク戦ヘリ」! ●1枚の写真「白旗の少女」の物語 ●渡嘉敷島「集団死」生き残りが見た地獄 ●米潜水艦に撃沈された学童疎開船「対馬丸」

4 天皇家の1世紀 (3月16日発売) ●昭和皇太后から美智子妃まで、写真で綴る「素顔の皇后」4代 ●昭和史の謎! 天皇「退位」に動いた人々 ●「人間天皇」、地方巡幸の目的 ●花ざかり「皇室外交」の1世紀 ●全系図・天皇家の人々

5 20世紀二都物語・東京と大阪 (3月30日発売) ●「都市を読みとく」後藤新平の「帝都大改造計画」 関一市長が構想した「帝都・大阪」 ●関東大震災「大阪市救済本部」の大活躍 ●東京・大阪「日本第1号」競争!

6 スクープ写真集! 外国人が撮った「不思議の国NIPPON」 (4月13日発売) ●世紀の報道写真家、ユージン・スミスと日本 ●黒船と「写真時代」到来! ●トマス・クック社の「ニッポン観光」事始め

7 20世紀災害史  
8 ヒット商品「100年ブランド」  
9 20世紀「号外」集成  
10 20世紀「男と女の事件簿」  
11 秘話! 日本選手、かく戦えり  
12 怪盗・怪事件ファイル  
13 20世紀の発見・発掘物語

14 我らの「テレビ時代」  
15 20世紀「食」事始め  
16 失われた「国宝」  
17 懐かしのオモチャ・絵本・遊び  
18 革命の20世紀「消えた王朝・帝国」  
19 20世紀「ヒット曲」物語  
20 20世紀「ライバル」物語

### 既刊好評発売中 既刊100冊! 1901年から1998年までに加え「20世紀前夜」と「明治という時代」がそろいました!



※ワンナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円(税別)です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

## 特集

宝物など文化財の散逸、海外流出も目立った。こうした極端な弾圧に対し、明治六年の三河議決一揆のよう

を拒む朝鮮を挑発して江華島事件を起した日本は、軍事力を背景に強引に調印にこぎつけた。条約は朝鮮

を勧める会(明治一八年七月、東京で医師の渡辺鼎、雑誌記者の石川映作らが設立。従来の日本髪は不潔、不潔になりやすい、不経、大正主義

## CONTENTS 週刊 YEARBOOK 日録20世紀 1868-1899

●特集  
新興国・日本、眠れる獅子と対決  
日清戦争「開戦」  
帝師の薙つ髪・裁着・平利己



明治の父たちにとって、  
その苦みは文明開化の味でした。

新鮮な明日へ  
**KIRIN**  
うまい!キリン

111年めの限定醸造  
1999  
復刻ラガープレゼント



## 父の、あの、ラガー

復刻ラガー 6本セット、抽選で111万名様にさしあげます

明治、大正、昭和・・・父たちの時代から飲みつがれてきた変わらぬうまさを、ぜひお楽しみください

応募期間 平成11年1月1日～4月9日（当日消印有効）

■賞品:「'99復刻ラガービール」6本セット（セット内容）明治・大正・昭和初期・昭和18年以降・昭和24年以降・昭和32～43年の当時のラベルをはじめ、原料配合から醸造方法にいたるまで、各時代の味を可能な限り再現した限定醸造のキリンラガービールです。※当賞品は非売品ですが、通常の小びんと同じ「リターナブルびん」です。（賞品はすべて小びん（334ml）です。）■対象商品:キリンラガービール 350ml缶・500ml缶・大びん・中びん（いずれも1本につき応募券が1枚ついています。）■応募方法:対象商品についている応募券（缶はシールで、びんはバックラベルの一部を切り取ってください。）をどれでも6枚1口として、応募はがきまたは市販のはがきに貼り、郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、応募口数を明記のうえ、ご応募ください。お1人様何口でもご応募いただけますが、1枚のはがきでは21口まで（応募券12枚分）とさせていただきます。（缶の応募券とびんの応募券が混在していても構いません。）■応募資格:20歳以上の方に限らせていただきます。未成年の方は、ご応募いただけません。キリンビール（株）の社員及び関係者の応募はできません。■抽選及び当選発表:期間中、10回の厳正な抽選を行い、当選の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。尚、お1人様のご当選数は、勝手ながら期間中3セットまでとさせていただきますので、あらかじめご了承ください。■賞品発送:賞品の発送は2月中旬から順次行予定ですが、醸造等の関係により時期が多少遅れることがありますので、あらかじめご了承ください。■宛先:〒119-0260 豊島郵便局 キリンラガービール「'99復刻ラガープレゼント」係 ■ご注意:びんの応募券を切り取る場合は、刃物などを使用せず、ミシン目によって丁寧に切り取ってください。はがきに応募券を貼る際には、はがれないように上からセロハンテープなどでしっかりと貼りください。■キャンペーンダイヤル（24時間対応）:東京0180-99-3770 / 大阪0180-99-6770 / つながらない時は03-5354-2766 ■ホームページアドレス <http://www.kirin.co.jp>



コク、苦み、ビールのうまさ  
**キリンラガービール**

キリンビール株式会社 飲酒は20歳になってから。あきかんはリサイクル。

